

3.1.3. 土壤環境

(1) 地形・地質

ア. 地形・地質の状況

① 現況地形・地質

a. 文献調査

調査範囲の地形・地質の状況は、図 3.1-21～図 3.1-22 に示すとおりである。

仙台市の地形は、西部の奥羽山脈東麓に沿って広がる陸前丘陵、中央部を西から東に流下する七北田川、広瀬川、名取川の各河川沿いに発達する河岸段丘、東部の仙台湾に沿って広がる沖積平野に大別され、西側から東側に移行するにつれて標高が低くなっている。

調査範囲の地形は、低位から高位の河岸段丘が七北田川沿いに発達し、その周囲に丘陵地が分布する地域となっている。対象事業計画地は、東側が丘陵地形を呈するのに対し、西側は高位段丘面となっている。

調査範囲の表層地質は、七北田川沿いに礫層・砂層及び粘土層からなる河岸段丘堆積物が分布し、図幅南東側には、砂岩・凝灰岩等からなる亀岡層、南西側には、砂岩・礫岩及びシルト岩からなる大年寺層が分布する。

対象事業計画地は、主に中央～東側に七北田層(細粒～粗粒砂岩)、西側に白沢層(シルト岩・細粒凝灰岩・軽石凝灰岩及び砂岩)が分布しており、パッチ状に段丘堆積物がみられる。

一方、図幅北側には、細粒～粗粒砂岩からなる七北田層が広く分布するが、北東側の大和町付近には、酸性軽石凝灰岩からなる宮床凝灰岩が分布する。

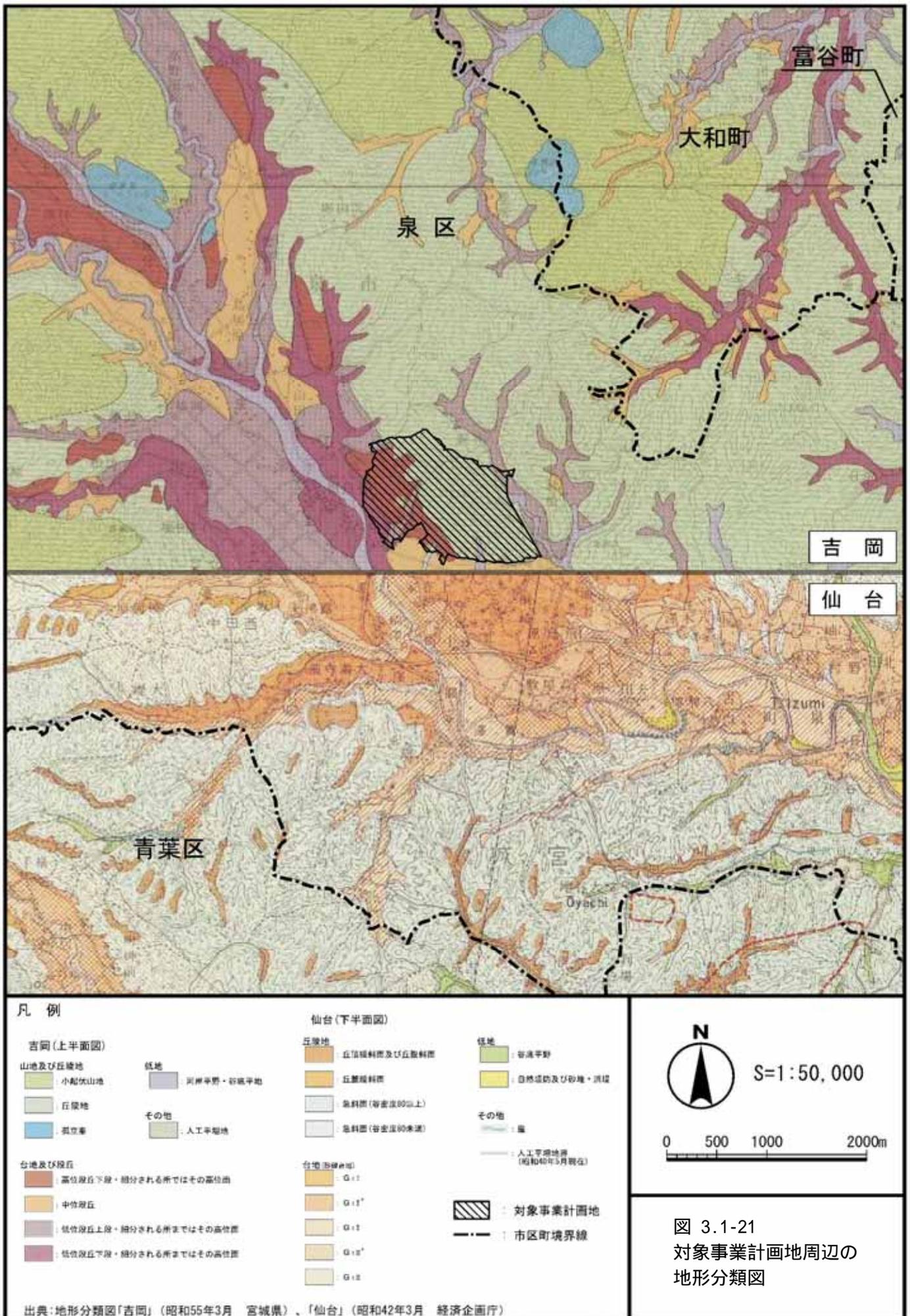
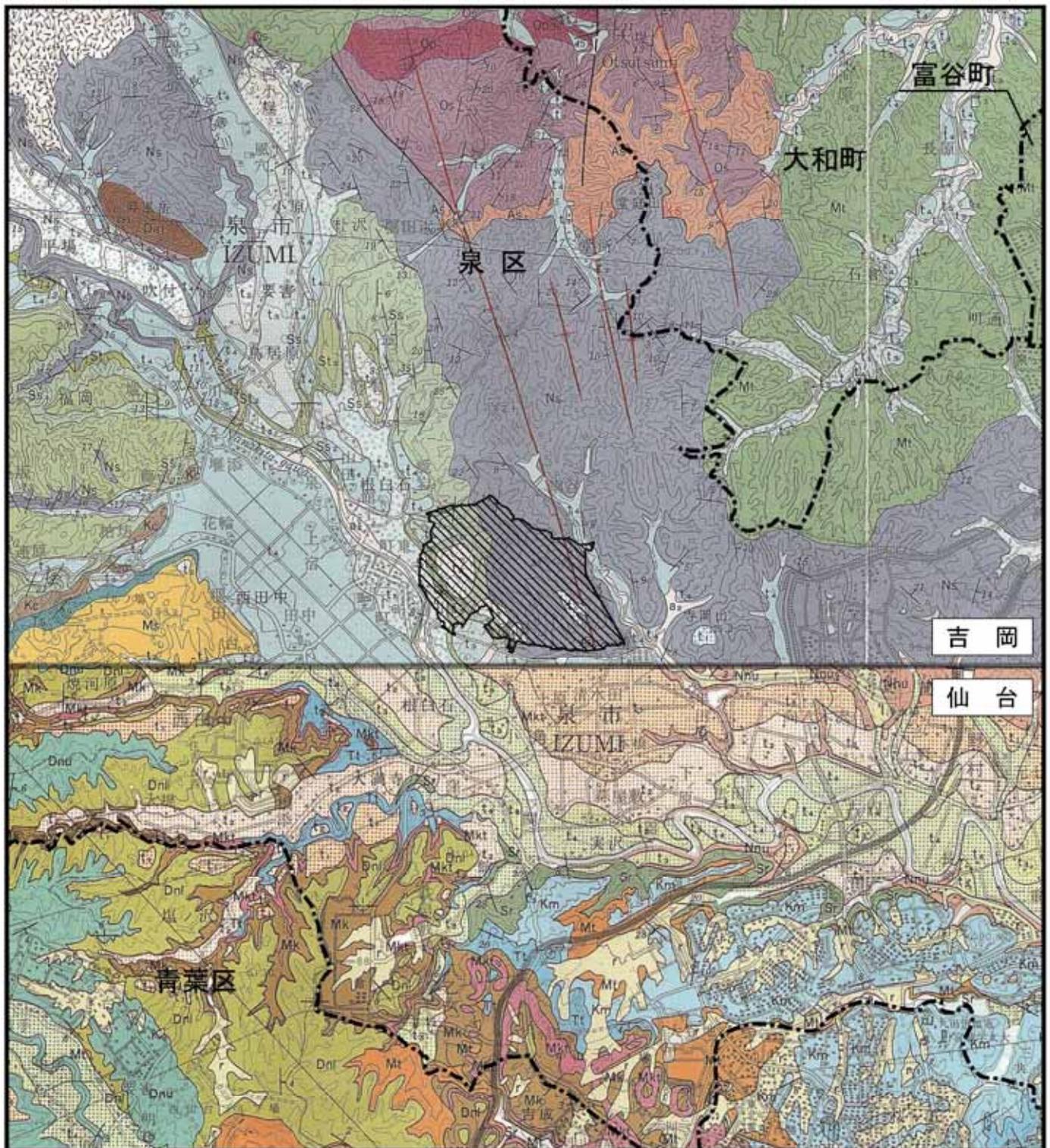


図 3.1-21
対象事業計画地周辺の
地形分類図



凡例

吉岡(上半面図)

- 沖積層
 - si 礫・砂及び泥
- 新丘堆積物
 - sl 礫及び砂
 - sls 礫・砂及び泥
- 荒川火砕岩
 - as 輝石・角閃・石英・砂及び火山灰
- 七ツ森火山岩
 - ss 輝石・角閃・石英・砂
- 豊成凝灰岩
 - st 凝性軽石凝灰岩
- 向山層
 - so 中粒～粗粒砂岩及び凝石凝灰岩

- 溝の口層
 - so シルト岩及び凝石凝灰岩
- 池田層
 - so 礫岩・凝性～粗粒砂岩及びシルト岩
- 白沢層
 - so シルト岩及び凝石凝灰岩
 - so 凝性軽石凝灰岩
 - so 凝石凝灰岩
- 七北田層
 - so 凝性～粗粒砂岩
- 青森層
 - so 崩壊帯にある凝性～中粒砂岩
- 大塩層
 - so 凝性～粗粒砂岩・凝石・シルト岩及び凝性～中粒凝灰岩
 - so 輝石・角閃・石英・砂

仙台(下半面図)

- 遠刈谷
 - si 土砂
- 沖積層
 - si 砂及び粘土
- 河岸段丘堆積物
 - sl 礫
 - sls 礫層・砂層及び粘土層
- 大年寺層
 - so 凝石凝灰岩及び凝石凝灰岩
 - so 砂岩・シルト岩
 - so 凝石凝灰岩及び凝石凝灰岩
- 向山層
 - so 凝石凝灰岩及び凝石凝灰岩
 - so 砂岩・シルト岩
 - so 凝石凝灰岩及び凝石凝灰岩
- 溝の口層
 - so 凝石凝灰岩・砂岩・シルト岩及び凝石凝灰岩

- 地蔵層
 - so 砂岩・凝灰岩・シルト岩凝灰岩及び凝石凝灰岩
 - 三滝層
 - so 安山岩質・玄武岩質凝灰岩・火山角岩及び凝石凝灰岩
 - 白沢層
 - so 凝石凝灰岩・凝石凝灰岩及び凝石凝灰岩
 - 七北田層
 - so 砂岩
- [Hatched Box] : 対象事業計画地
 [Dashed Line] : 市区町境界線
 [Red Arrow] : 断層
 [Red Arrow] : 向斜軸
 [Red Arrow] : 背斜軸
 [Red Arrow] : 地層の走向及び傾斜

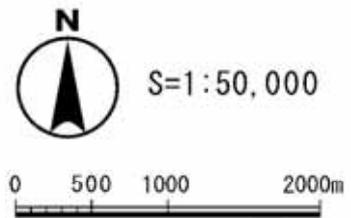


図 3.1-22 対象事業計画地周辺の表層地質図

出典:5万分の1地形図「吉岡」(昭和58年11月 地質調査所)。「仙台」(昭和61年3月 地質調査所)

b. 平成 12 年 3 月評価書

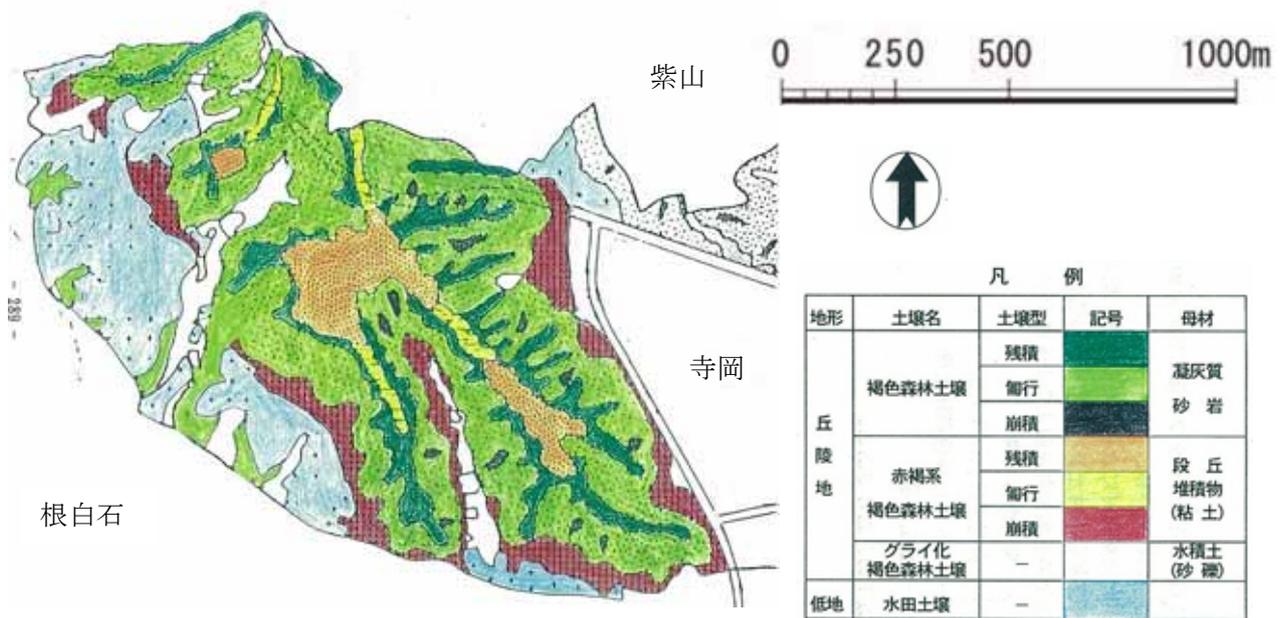
平成 12 年 3 月評価書において、対象事業計画地で地形・地質調査及び各種試験を実施している。対象事業計画地の地形・地質概要は表 3.1-87、土壌分布図は図 3.1-23、地質平面図は図 3.1-24、地質断面図は図 3.1-25、地質構成表は表 3.1-88、土木地質試験・岩石試験結果概要は表 3.1-89～表 3.1-91 にそれぞれ示すとおりである。

仙台市泉区北部の根白石に位置する対象事業計画地は、大和町との行政界にほど近い場所にあり、東側に泉パークタウン寺岡地区が隣接している。

対象事業計画地の地形は、奥羽山脈の東麓に広がる定高性の低平丘陵地帯として特徴づけられる。

対象事業計画地の周辺地域を構成する地質は、新第三紀中新世の堆積岩類及び火山破碎岩類を主体としている。対象事業計画地に分布する地質は、後期中新世の七北田層及び白沢層を主体とし、これらの基盤岩類を覆って未固結の段丘堆積物、崖錐堆積物が発達している。

対象事業計画地の地層の傾斜は概ね 15° 以下である。東側には南北方向に伸びる背斜状隆起帯が存在し、全体に緩やかな褶曲がみられる。



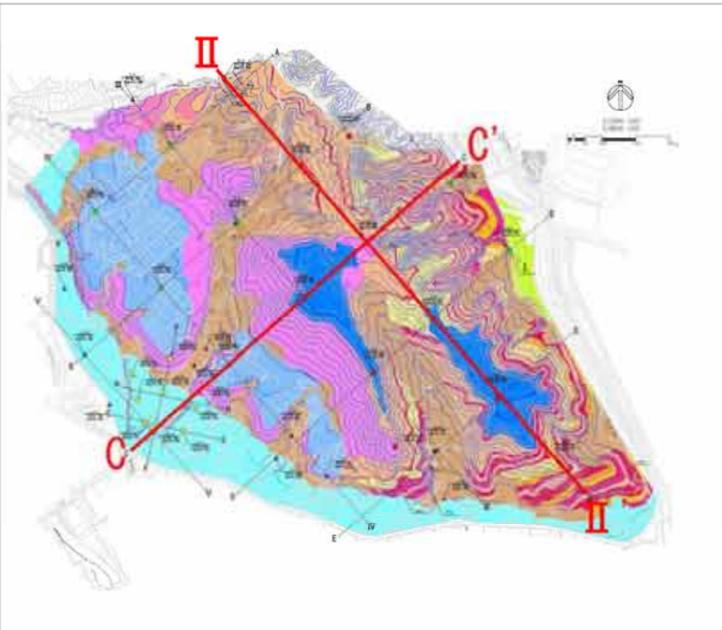
出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

図 3.1-23 対象事業計画地土壌分布図

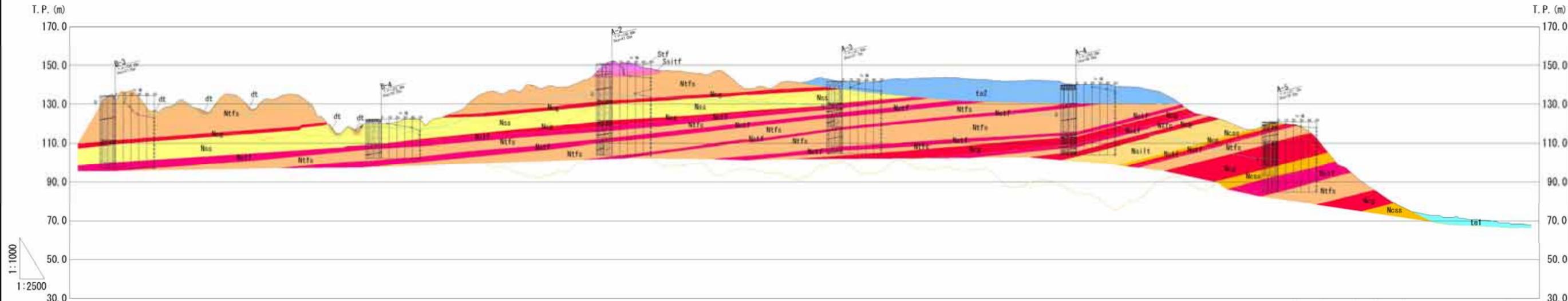
表 3.1-87 対象事業計画地の地形・地質調査結果概要（平成 12 年 3 月評価書）

項目		調査結果の概要
地質及び地質構造	七北田層	七北田層は、対象事業計画地の北東部に分布する。調査結果では、80m 程度の層厚に相当する地質が確認されている。 一般に新第三紀の堆積岩は、岩相変化が激しく、単一岩相の厚さが数 cm～数 10cm 毎に変化し、岩種も水平・鉛直方向に遷移的に変化するものが多いことが知られている。対象事業計画地に分布する七北田層についても、同様の岩相変化の傾向が認められた。 七北田層は凝灰質砂岩を主体とし、これと砂質凝灰岩、礫岩、シルト岩、シルト質凝灰岩が互層をなしている。
	白沢層	白沢層は、対象事業計画地の南西部に位置し、七北田層の上位に堆積している。調査結果では、120m 程度の層厚に相当する地質が確認されている。 対象事業計画地に分布する白沢層は、層厚 8m 以下のシルト質凝灰岩と軽石を混在する酸性の凝灰岩によって構成される。
	段丘堆積物	対象事業計画地における段丘堆積物は、その基底面の標高により、高位段丘、中位段丘、低位段丘に分けられる。高位段丘は、対象事業計画地の中央部及び東部に位置する。中位段丘は、対象事業計画地の西部に位置する。低位段丘は、対象事業計画地の南西部に位置する。いずれの段丘も基礎底面は、安山岩質の円礫及び玉石を主体とする砂礫によって構成される。
	崖錐堆積物	主に対象事業計画地の山裾部及び沢沿いに分布する。角礫、亜角礫を含む未固結の砂質粘土を主とする。 調査結果では、沼地等の比較的分解の進んだ腐植土も含め、崖錐堆積物として取り扱っている。N 値は概ね 30 以下を示す。
表層土壌	褐色森林土壌	凝灰質砂岩を母材とし、沢の発達した開析地形に発達している。本土壌は、尾根地形の平坦部及び山麓緩斜面で赤褐色系褐色森林土壌と接している。 狭小尾根部には、粗ないし軟の堆積状態を示す残積的な乾燥土壌（砂壤土）が分布し、斜面には葡行的な適潤性の土壌が広く分布する。斜面の谷頭部には、局部的に崩積的な弱湿性の土壌（砂壤土）が分布している。
	赤褐色森林土壌	段丘堆積物（粘土）を母材として、対象事業計画地の平坦ないし緩斜面に分布する。赤褐色を呈し、壤土ないし植壤土の堅密な土壌である。山頂平坦部では典型的な残積土の形態を呈し、山麓緩斜面では、拳大以上の円礫を混入し、成層状態は不規則である。 本土壌が赤褐色を呈しているのは古赤風化に由来しているものと考えられる。
	グライ化褐色森林土壌	水田に続く谷底部にみられ、細礫、砂、粘土などの堆積物からなる。沢の流水の影響で、種々の程度にグライ化（灰色～淡青色）しているが、腐植土層の発達もみられ、排水状態はそれほど不良ではない。
	水田土壌	対象事業計画地の低地を占め、作土層、鉄盤層、地下水位を伴う場合が多い。

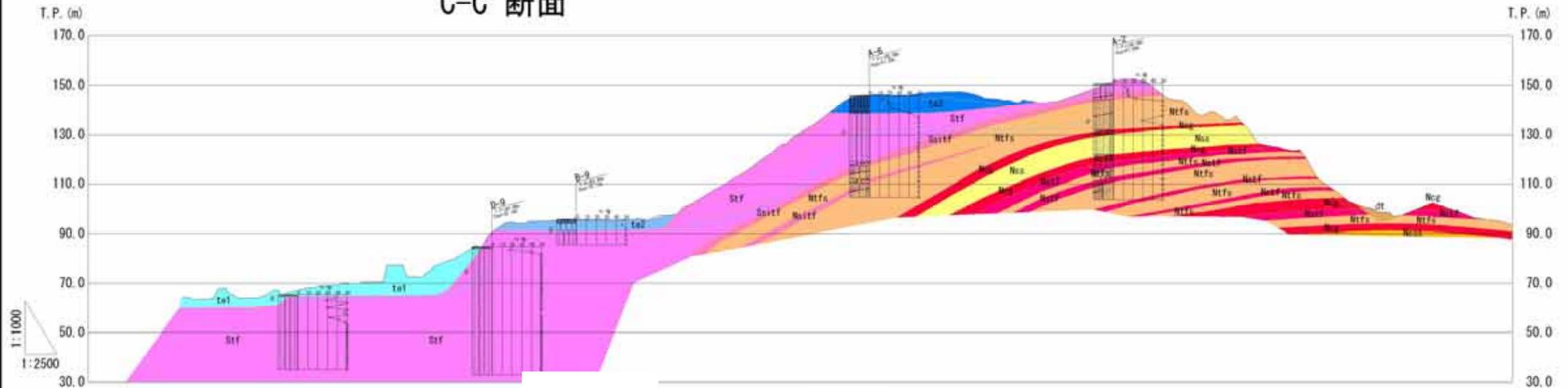
出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）



II-II' 断面



C-C' 断面



地質時代	地層名	層相	地質記号	備考
新第三紀	沖積層	沖積土	dt	山形県立地質調査所調査による。1:10000地形図、2:5000地形図に示す位置に於ける。沖積土の分布は、地形図に示す位置に於ける。
	第四紀	沖積層	ta1	沖積層の地層記号は、地質図に示す位置に於ける。沖積層の分布は、地形図に示す位置に於ける。
白垩紀	扇状地	砂礫層	ta2	扇状地の地層記号は、地質図に示す位置に於ける。扇状地の分布は、地形図に示す位置に於ける。
	白河層	礫層	Stf	白河層の地層記号は、地質図に示す位置に於ける。白河層の分布は、地形図に示す位置に於ける。
		シルト質礫層	Ntfa	白河層の地層記号は、地質図に示す位置に於ける。白河層の分布は、地形図に示す位置に於ける。
新第三紀	扇状地	砂礫層	Nsa	扇状地の地層記号は、地質図に示す位置に於ける。扇状地の分布は、地形図に示す位置に於ける。
	新第三紀	シルト質礫層	Ntfa	新第三紀の地層記号は、地質図に示す位置に於ける。新第三紀の分布は、地形図に示す位置に於ける。
		砂礫層	Nsa	新第三紀の地層記号は、地質図に示す位置に於ける。新第三紀の分布は、地形図に示す位置に於ける。
	白垩紀	扇状地	砂礫層	Ntfa
礫層		Ntfa	白垩紀の地層記号は、地質図に示す位置に於ける。白垩紀の分布は、地形図に示す位置に於ける。	
礫層		Ntfa	白垩紀の地層記号は、地質図に示す位置に於ける。白垩紀の分布は、地形図に示す位置に於ける。	

図 3.1-25 地質断面図(II断面、C断面)
 出典:「泉パークタウン第6住区開発に伴う地質調査業務報告書 平成9年10月 三菱地所株式会社, 応用地質株式会社」

表 3.1-88 地質構成表

地質時代		地層名	層相	地質記号	備考
第四紀	完新世	崖錐堆積物	礫混り砂質粘土	dt	山裾部及び沢沿いに分布する。φ2~30mmの角礫、亜角礫を含む砂質粘土を主とする崖錐堆積物である。比較的分解の進んだ腐植土も含む。
	更新世	段丘堆積物	砂礫	te1	低位段丘 標高60~70mを基底面とする。基底部はφ5~75mmの安山岩質円礫、φ75~130mmの安山岩質玉石主体の砂礫である。
				te2	中位段丘 標高約90mを基底面とする。基底部はφ5~75mmの安山岩質円礫、φ75~250mmの安山岩質玉石主体の砂礫である。
				te3	高位段丘 標高130~138mを基底面とする。基底部はφ5~75mmの安山岩質円礫、φ75~150mmの安山岩質玉石主体の砂礫である。
新第三紀	白沢層		凝灰岩	Stf	全体に、白色の軽石を多量に混在する酸性の凝灰岩である。部分的に、層厚2m以下の細粒凝灰岩層を含む。薄い植物化石層を挟む。固結度中程度。
			シルト質凝灰岩	Ssitf	葉理が認められるシルト質凝灰岩である。軽石を挟在する。七北田層との境界部に分布する。固結度中程度。
			シルト質凝灰岩	Nsitf	シルト質~細粒砂質の凝灰岩である。軽石を挟在する。葉理が認められる。七北田層最上部の凝灰質砂岩中にレンズ状に分布する。部分的にピスライトを濃集する。固結度やや高い。
	七北田層		砂岩	Nss	少量の軽石を含む砂岩である。級化層理が認められる。部分的に葉理が発達している。葉理面に沿って黒色の鉱物を濃集しており、風化により、赤褐色を呈する部分がある。固結度中程度~やや高い。
			シルト岩	Nsilt	葉理の発達しているシルト岩である。固結度高い。
			砂質凝灰岩	Nstf	軽石を多く含む砂質凝灰岩である。部分的に薄い凝灰質砂岩層を挟む。斜交葉理が認められる。固結度中程度~やや高い。
			凝灰質砂岩	Ntfs	葉理が認められる凝灰質砂岩である。葉理面に沿って黒色の鉱物を濃集しており、風化により赤褐色を帯びている。軽石を挟在する。斜交葉理が認められる。固結度中程度。
			礫岩	Ncg	φ2~40mmの安山岩円礫、泥岩円礫、黒色の火山細礫、軽石等を礫種とする。円礫の中には、みがかれて滑らかになったものも含む。マトリックスは凝灰質砂岩。固結度中程度。
			粗粒砂岩	Ncss	細礫混りの粗粒砂岩である。部分的に薄い凝灰岩層を挟む。葉理が認められる。固結度中程度。

出典：「泉パークタウン第6住区開発に伴う地質調査業務報告書 平成9年10月 三菱地所株式会社、応用地質株式会社

表 3.1-89 対象事業計画地の土木地質試験，岩石試験結果概要（1/3）（平成 12 年 3 月評価書）

試験項目	試験結果の概要
土木地質	<p>弾性波探査</p> <p>対象事業計画地の地山弾性波速度を把握し，造成工事における地山の掘削性及び掘削後の法面の安定性を検討する目的で弾性波探査を実施した。 調査の結果，計画地の速度構成は 4 層構造となった。各速度層の速度値と対応する地質状況は以下の通りである。</p> <p>第 1 層（0.3～0.4km/s）：表土，基礎岩の強風化帯 第 2 層（0.5～0.8km/s）：基礎岩の強風化帯 第 3 層（1.0～1.5km/s）：基礎岩の弱風化帯 第 4 層（1.8～2.2km/s）：基礎岩の新鮮部</p>
	<p>標準貫入試験</p> <p>ボーリング調査と並行して 1m 毎に標準貫入試験を行った。ただし，切土部及び盛土部におけるボーリングで，貫入試験の結果，N 値が 50 以上を示し，堅硬な岩が厚く分布していると考えられる場合は，2m 間隔で実施した。 各地層の N 値は以下のとおりである。</p> <p>崖錐堆積物：N=1～30 段丘堆積物：N≤30 白沢層：（風化部）N=1～50，（新鮮部）N≥50 七北田層：（風化部）N=27～50，（新鮮部）N≥50</p>
	<p>現場透水試験</p> <p>調査地基礎地盤の透水性を把握するため，2 箇所（11 区間）においてボーリング孔を利用した現場透水試験を行った。 試験の結果，ルジオン値はいずれの箇所においても，概ね 10 以下（D-2 孔），5 以下（D-4 孔）と低い値を示し，難透水性地盤の傾向が認められた。</p>
	<p>土質試験</p> <p>盛土の材料特性を把握するため，土粒子の密度，含水比，粒度，締固め，コーン貫入，三軸 UU，三軸 CD 及び CBR の各試験を行った。 試験結果は全て砂質土に分類され，結果から以下のようにまとめることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 盛土材料としては，礫岩・凝灰質砂岩・凝灰岩及び砂岩から構成され，凝灰質砂岩または凝灰岩が主体となる。 ② いずれも粗粒分が卓越しており，粒度分布は良好である。 ③ 施工時の最適含水比は，20～30%を示すものが多く，この値はほぼ自然含水比と等しい傾向にある。すなわち，締固めやすい性質を有している。 ④ 平均 CBR は，全体的にみて 2 以下を示すものが多く，路床材として利用するには改良が必要である。 ⑤ 粘着力（Cd）は，0.1kgf/cm²前後を示すものが多く，せん断抵抗角（φd）は，31°前後を示すものが多い。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 3.1-90 対象事業計画地の土木地質試験，岩石試験結果概要（2/3）（平成 12 年 3 月評価書）

試験結果の概要

岩石試験は、切土部で実施したボーリングコアのうち A-1, A-3, A-6, A-8 の 4 孔より代表的な地層の試料を選んで、物理試験及び力学試験を実施した。

試験結果は、地層別に大きな範囲にばらついているが、概ね以下の物性値を示す。

密度 (ρ_t) = 1.50~1.80 (kgf/m³)

吸水率 (Wab) = 30~50 (%)

伝播速度 (Vp) = 1.0~2.0 (km/s)

一軸強度 (qu) = 15~70 (kgf/m³)

表 盛土の材料試験結果一覧表

岩石名	礫岩	礫岩	凝灰質砂岩	凝灰質砂岩	凝灰質砂岩	凝灰質砂岩	粗粒砂岩	砂質凝灰岩	凝灰質砂岩	凝灰岩
土質名	礫混じり砂質土	礫混じり砂質土	砂質土	砂質土	砂質土	礫混じり砂質土	礫混じり砂質土	砂質土	砂質土	砂質土
土粒子の密度 (ρ_s g/cm ³)	2.584	2.585	2.633	2.618	2.619	2.717	2.788	2.642	2.662	2.621
自然含水比 (%)	47.6	51.2	24.6	20.4	22	35.2	26.3	48.9	41.6	28.8
粒度 (%)	礫分	4.5	19.8	0	0	0	3.5	10.3	1.1	0.1
	砂分	62.9	62.2	77.3	82.6	81.3	74.2	67	72.6	57.2
	シルト分	22.4	11.2	15.7	11.5	11.9	16.4	16.9	23.4	20.3
	粘土分	10.2	6.8	7	5.9	6.8	5.9	5.2	8.5	7
最大乾燥密度 (ρ_{dmax} g/cm ³)	1.295	1.328	1.524	1.494	1.536	1.345	1.601	1.157	1.23	1.454
最適含水比 (%)	32.8	31.2	21	24.4	22.2	32	21.2	44.2	39.6	25.5
平均 CBR (%)	0.6	0.5	2.6	34.2	8.2	1.4	2.8	1.6	1.8	3.3
粘着力 (Cd kgf/cm ²)	0.21	0.16	0.11	0.14	0.1	0.1	0.13	0.17	0.15	0.11
せん断抵抗角 ϕ_d (度)	37.56	39.53	31.19	30.27	30.2	31.02	31.84	30.9	35.09	30.28
粘着力 (Cd kgf/cm ²)							0.32			
せん断抵抗角 ϕ_d (度)							25.15			

岩石試験

表 各地層別・岩石試験結果一覧表

地層		岩級区分	試料数	自然比重 ρ_t (kgf/cm ³)		吸水率 Wab (%)		伝播速度 Vp (km/sec)		一軸強度 Qu (kgf/cm ²)	
地層名	地質記号			範囲	平均	範囲	平均	範囲	平均	範囲	平均
粗粒砂岩	Ncss	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
礫岩	Ncg	CM	1	1.72	1.72	43.5	43.5	1.44	1.44	14.2	14.2
凝灰質砂岩	Ntfs	CL	6	1.53~2.13	1.79	14.9~67.1	32.1	0.89~2.02	1.36	4.52~34.8	11.9
		CM	10	1.16~1.90	1.45	30.0~67.1	49.7	0.88~2.29	1.38	11.6~135.9	35.9
砂質凝灰岩	Nstf	CL	1	1.34	1.34	66.7	66.7	1.04	1.04	18.7	18.7
		CM	2	1.30~1.86	1.58	29.2~73.2	51.2	1.18~2.31	1.75	17.5~113.6	65.5
シルト岩	Nsill	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
砂岩	Nss	CM	4	1.66~1.99	1.96	12.9~34.8	20.9	2.03~2.44	2.20	22.7~136.4	70.5
シルト質凝灰岩	Nsiltf	CH	1	1.68	1.68	44.1	44.1	2.01	2.01	67.0	67.0
シルト質凝灰岩	Ssiltf	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
凝灰岩	Stf	DM	3	1.40~1.60	1.48	45.7~65.5	54.0	1.72~2.14	1.93	24.9~40.5	33.2
		CL	4	1.43~1.55	1.51	42.5~62.0	56.4	0.32~1.41	0.69	8.45~25.9	15.4

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

表 3.1-91 対象事業計画地の土木地質試験，岩石試験結果概要（3/3）(平成12年3月評価書)

試験結果の概要

ボーリングコアのうち A-2 (採取深度 25.0m~26.0m), A-4 (採取深度 23.0m~24.0m), A-6 (採取深度 24.0m~25.0m) の採取コア 3 試料について土壌の沈降特性及び粒径分布を調べた。
 粒度試験の結果，シルト以下の細粒分が 9.3~21.0%含まれていた。
 沈降試験の結果，180 分後の平均残留率は 1.6%，SS 濃度は 32mg/l であった。

表 粒径分布一覧表

粒径 (mm)	ふるい通過率 (%)		
	No. 1 (A-2) 七北田層 砂岩	No. 2 (A-4) 七北田層 凝灰質砂岩	No. 3 (A-6) 白沢層 凝灰岩
礫	9.500	100.0	100.0
	4.750	98.2	95.0
砂	2.000	96.3	86.1
	0.850	88.9	67.1
	0.425	61.5	33.4
	0.250	28.2	21.7
	0.106	11.6	12.8
シルト	0.075	9.3	10.6

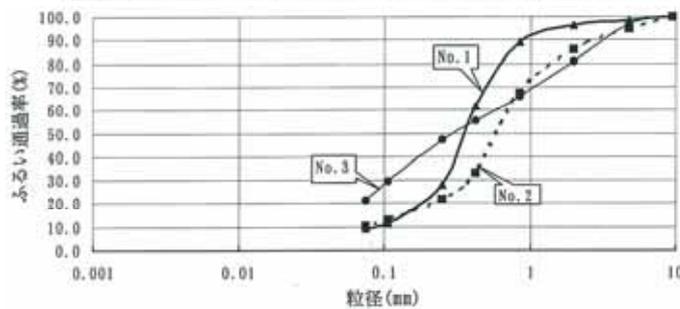


図 粒径分布図

表 沈降特性一覧表

時間 (分)	No. 1 (A-2) 七北田層 砂岩		No. 2 (A-4) 七北田層 凝灰質砂岩		No. 3 (A-6) 白沢層 凝灰岩		平均	
	SS濃度	残留率	SS濃度	残留率	SS濃度	残留率	SS濃度	残留率
0	2000	100.0	2000	100.0	2000	100.0	2000	100.0
5	140	7.0	120	6.0	220	11.0	160	8.0
10	120	6.0	81	4.1	130	6.5	110	5.5
15	100	5.0	66	3.3	94	4.7	87	4.3
30	89	4.5	44	2.2	54	2.7	62	3.1
60	69	3.5	30	1.5	29	1.4	43	2.1
180	57	2.8	20	1.0	20	1.0	32	1.6
360	49	2.5					16	0.8
1440	24	1.2					8	0.4
2880							0	0

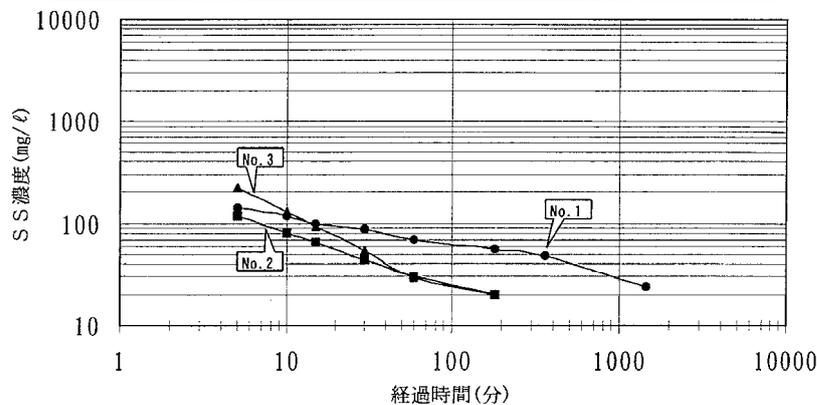


図 沈降特性図

粒度試験及び沈降特性

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」（平成12年3月 三菱地所株式会社）

② 注目すべき地形

調査範囲には、「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)に基づく天然記念物等、「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)に掲載されている地形・地質、「日本の典型地形 都道府県別一覧」(平成 11 年 4 月 国土地理院)に掲載されている地形はない。

③ 災害履歴

調査範囲において、東日本大震災による特段の被害はない。

イ. 地形・地質保全上の留意点

対象事業計画地では、切土・盛土法面が計画されるが、谷埋め盛土等の安定性に配慮した計画とする。

(2) 地盤沈下

ア. 地盤沈下の状況

① 規制地域の指定状況

仙台市では、「工業用水法」（昭和 31 年 6 月 11 日 法律第 146 号）の第 3 条第 1 項で定める指定地域が指定されている。対象事業計画地は「工業用水法」に基づく指定地域に含まれない。

また、調査範囲は「建築物用地下水の採取に関する法律」（昭和 37 年 5 月 1 日 法律第 100 号）の第 3 条第 1 項で定める指定地域に含まれない。

地下水の採取に係る条例として、仙台市では、「宮城県公害防止条例」（昭和 46 年 3 月 18 日 条例第 12 号）において、地下水採取規制を行っており、新增設井戸の届出、地下水採取量の記録、報告の義務付けを行うとともに、知事による地下水採取量の削減と水源転換等の指導を行っている。対象事業計画地は「宮城県公害防止条例」に基づく地下水採取規制の対象地域に含まれない。

② 地盤沈下の観測

「公害関係資料集」（平成 24 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、調査範囲において地盤沈下の観測が実施された情報はない。

③ 地下水位の観測

「公害関係資料集」（平成 24 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、調査範囲において地下水位の観測が実施された情報はない。

④ 累積地盤収縮量の推移

「公害関係資料集」（平成 24 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、調査範囲において累積地盤収縮量の測定が実施された情報はない。

⑤ 地盤沈下に関する苦情件数

仙台市では、「公害関係資料集」（平成 24 年度測定結果）（仙台市環境局）によると、平成 24 年度における地盤沈下に関する苦情は出されていない。大和町では、「公害苦情調査結果報告書」（宮城県環境生活部環境対策課）によると、平成 24 年度における地盤沈下に関する苦情は出されていない。

なお、平成 12 年 3 月評価書において、地盤沈下の調査は実施していない。

イ. 地盤沈下防止上の留意点

対象事業計画地及びその周辺には、地盤沈下が生じやすい地形・地質（沖積低地の粘土質、砂質、泥炭質、腐植土質からなる地盤）は分布しておらず、地盤沈下が発生する可能性は少ない。

なお、事前に人工物（管等）の埋没等について十分に確認するとともに、計画地内に複数存在するため池を埋め立てる際には、防災暗渠による排水を行い、十分な転圧を行いながら盛土を構築するよう留意する。

(3) 土壌汚染

ア. 土壌汚染の状況

① 対象事業計画地の土壌調査結果（平成 12 年 3 月評価書）

平成 12 年 3 月評価書において、調査範囲で土壌汚染調査を実施している。測定結果は表 3.1-92、調査地点は図 3.1-26 に示すとおりである。

いずれの調査地点でも環境基準を下回る。

表 3.1-92 土壌汚染調査結果（平成 12 年 3 月評価書）

採取年月日		平成 9 年 8 月 22 日			
項目		地点			環境基準
		No.1	No.2	No.3	
環境基準項目	カドミウム及びその化合物 (mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.01 以下
	シアン化合物 (mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	有機リン (mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	鉛及びその化合物 (mg/L)	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01 以下
	六価クロム化合物 (mg/L)	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05 以下
	砒素 (mg/L)	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.01 以下
	砒素（農用地） (mg/kg 乾量)	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	15 未満
	総水銀 (mg/L)	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 以下
	アルキル水銀化合物 (mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	P C B (mg/L)	不検出	不検出	不検出	検出されないこと
	銅含有量 (mg/L)	0.005 未満	0.005 未満	0.015	—
	銅含有量（農用地） (mg/kg 乾量)	1.17	0.02 未満	3.25	125 未満
	ジクロロメタン (mg/L)	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02 以下
	四塩化炭素 (mg/L)	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
	1,2-ジクロロエタン (mg/L)	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満	0.004 以下
	1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02 以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.04 以下
	1,1,1-トリクロロエタン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	1 以下
	1,1,2-トリクロロエタン (mg/L)	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
	トリクロロエチレン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.03 以下
	テトラクロロエチレン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下
	1,3-ジクロロプロペン (mg/L)	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002 以下
	チウラム (mg/L)	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006 以下
	シマジン (mg/L)	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003 以下
チオベンカルブ (mg/L)	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.02 以下	
ベンゼン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下	
セレン (mg/L)	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01 以下	

※検出されないこととは、「土壌の汚染に係る環境基準について」（平成 3 年環境庁告示第 46 号）で、定められた分析方法による分析結果が、当該方法の定量限界を下回ること。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

② 対象事業計画地周辺の土壌調査結果

調査範囲において「大沢宅地造成事業報告書」(平成 21 年 1 月 大成ロテック株式会社) 及び「環境影響評価書 仙台市新墓園建設事業(第 2 期)」により、土壌汚染調査が実施されている。測定結果は、表 3.1-93 及び表 3.1-94、調査地点は、図 3.1-27 に示すとおりである。

これらの調査では、いずれの分析項目も土壌汚染対策法の基準等を下回っている。

表 3.1-93 土壌汚染調査結果(第二種特定有害物質:重金属等)

項目	分析結果		土壌汚染対策法の基準	
	土壌溶出量 (mg/L)	土壌含有量 (mg/kg)	土壌溶出量基準 (mg/L)	土壌含有量基準 (mg/kg)
カドミウム及びその化合物	0.001 未満	5 未満	0.01 以下	150 以下
六価クロム化合物	0.01 未満	10 未満	0.05 以下	250 以下
水銀及びその化合物	0.005 未満	0.5 未満	水銀が 0.0005 以下 かつアルキル水銀が 検出されないこと	15 以下
セレン及びその化合物	0.001 未満	5 未満	0.01 以下	150 以下
鉛及びその化合物	0.001 未満	5 未満	0.01 以下	150 以下
砒素及びその化合物	0.001 未満	5 未満	0.01 以下	150 以下
ふっ素及びその化合物	0.08 未満	200 未満	0.8 以下	4,000 以下
ほう素及びその化合物	0.1 未満	200 未満	1 以下	4,000 以下

※土壌溶出量は環境省告示(第 18 号平成 15 年 3 月 6 日)、土壌含有量は環境省告示(第 19 号平成 15 年 3 月 6 日)により測定したものである。環境基準の「検出されないこと」とは、「土壌の汚染に係る環境基準について」(平成 3 年環境庁告示第 46 号)別表に掲げる方法により当該項目を測定した場合に、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

※七北田層凝灰質砂岩(対象事業計画地に分布する地質)を対象とした分析結果である。

出典:「大沢宅地造成事業報告書」(平成 21 年 1 月 大成ロテック株式会社)

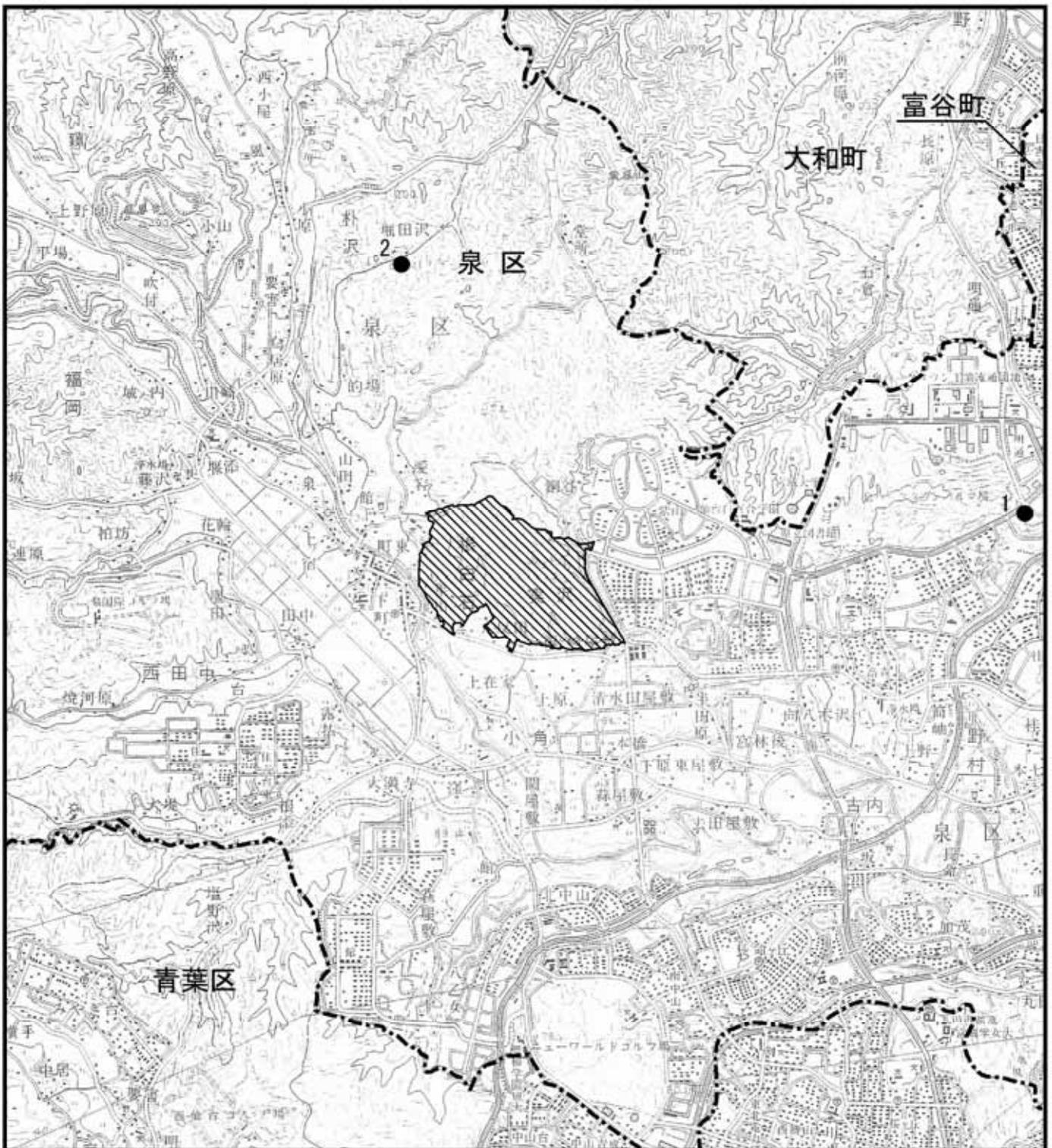
表 3.1-94 土壌汚染調査結果

調査項目	No.1	No.2	No.3	環境基準
カドミウム mg/L	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.01mg/L 以下かつ農用地では米1kg中1mg未満
全シアン mg/L	不検出 (0.1 未満)	不検出(0.1 未満)	不検出(0.1 未満)	検出されない事
有機燐 mg/L	不検出 (0.1 未満)	不検出(0.1 未満)	不検出(0.1 未満)	検出されない事
鉛 mg/L	0.01 未満	0.01 未満	0.01 未満	0.01mg/L 以下
六価クロム mg/L	0.05 未満	0.05 未満	0.05 未満	0.05mg/L 以下
砒素 mg/L	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.01mg/L 以下
砒素 (農用地) mg/kg	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満	農用地では土壌1kgにつき15mg未満
総水銀 mg/L	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005mg/L 以下
アルキル水銀 mg/L	不検出 (0.0005 未満)	不検出(0.0005 未満)	不検出(0.0005 未満)	検出されない事
P C B mg/L	不検出 (0.0005 未満)	不検出(0.0005 未満)	不検出(0.0005 未満)	検出されない事
銅 mg/L	0.007	0.005 未満	0.006	—
銅含有量(農用地) mg/kg	0.37	0.96	0.72	農用地では土壌1kgにつき125mg未満
ジクロロメタン mg/L	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02mg/L 以下
四塩化炭素 mg/L	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002mg/L 以下
1,2-ジクロロエタン mg/L	0.0004 未満	0.0004 未満	0.0004 未満	0.004mg/L 以下
1,1-ジクロロエレン mg/L	0.002 未満	0.002 未満	0.002 未満	0.02mg/L 以下
シス-1,2-ジクロロエレン mg/L	0.004 未満	0.004 未満	0.004 未満	0.04mg/L 以下
1,1,1-トリクロロエタン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	1mg/L 以下
1,1,2-トリクロロエタン mg/L	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006mg/L 以下
トリクロロエレン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.03mg/L 以下
テトラクロロエレン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01mg/L 以下
1,3-ジクロロプロペン mg/L	0.0002 未満	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002mg/L 以下
チウラム mg/L	0.0006 未満	0.0006 未満	0.0006 未満	0.006mg/L 以下
シマジン mg/L	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.003mg/L 以下
チオベンカルブ mg/L	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.02mg/L 以下
ベンゼン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01mg/L 以下
セレン mg/L	0.001 未満	0.001 未満	0.001 未満	0.01mg/L 以下

※測定結果の「～未満」とは、計量の下限値未満であり、環境省告示による調査方法では検出されなかったことを示す。

※表記している3つの調査結果及び箇所は、第1期墓園事業の環境影響評価時に調査したものであり、詳細な時期・位置は出典には記載されていない。

出典：「環境影響評価書 仙台市新墓園建設事業(第2期)」(仙台市)



凡例

 : 対象事業計画地

 : 市区町境界線

● : 土壌汚染調査地点 (図中番号 1 : 出典1による)
(図中番号 2 : 出典2による)



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

※ 調査地点2については、詳細な土壌汚染調査地点が不明であるため、新墓園建設事業地を示している。

出典1 : 「大沢宅地造成事業報告書」(平成21年1月 大成ロテック株式会社)
出典2 : 「環境影響評価 仙台市新墓園建設事業(第2期)」(仙台市)

図 3.1-27
土壌汚染調査地点位置図
(調査範囲近隣地区)

③ 土壌のダイオキシン類調査結果

調査範囲では、平成 20 年度及び平成 24 年度に土壌のダイオキシン類調査が実施されている。土壌のダイオキシン類調査結果は表 3.1-95、調査地点図は図 3.1-28 に示すとおりである。調査結果はいずれの地点においても環境基準値を満足していた。

表 3.1-95 土壌のダイオキシン類調査結果

単位：pg-TEQ/g

調査項目・環境基準値	調査地点名 調査年月日	館中央公園 (No.1)	泉ヶ丘小学校 (No.2)
		H20.11.18,19	H24.11.27
ダイオキシン類	1,000	2.3	0.041

出典：「公害関係資料集」(平成 20～24 年度測定結果)(仙台市環境局)

④ 土壌汚染対策法施行状況

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までの仙台市における土壌汚染対策法の施行状況は、表 3.1-96 に示すとおりである。

法に規定する特定有害物質の使用を把握している特定施設の件数は 156 件である。

施行件数が最も多いものは、法第 4 条の「一定規模 (3,000m²) 以上の土地の形質の変更の届出」の 72 件である。

表 3.1-96 土壌汚染対策法施行状況

(平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)

内 容		件数
法に規定する特定有害物質の使用を把握している特定施設の件数		156
法第 3 条※1	有害物質使用特定施設の廃止件数	17
	調査結果報告件数	5
	調査猶予件数	14
法第 4 条	一定規模 (3,000 m ²) 以上の土地の形質の変更の届出	72
	調査命令発出件数	0
	調査結果報告件数	0
法第 5 条	調査命令発出件数	0
	調査結果報告件数	0
法第 6 条	要措置区域に指定した件数	5
	要措置区域を解除した件数	0
法第 1 2 条	形質変更時要届出区域に指定した件数	6
	形質変更時要届出区域を解除した件数	0
法第 1 4 条※2	指定の申請件数	9

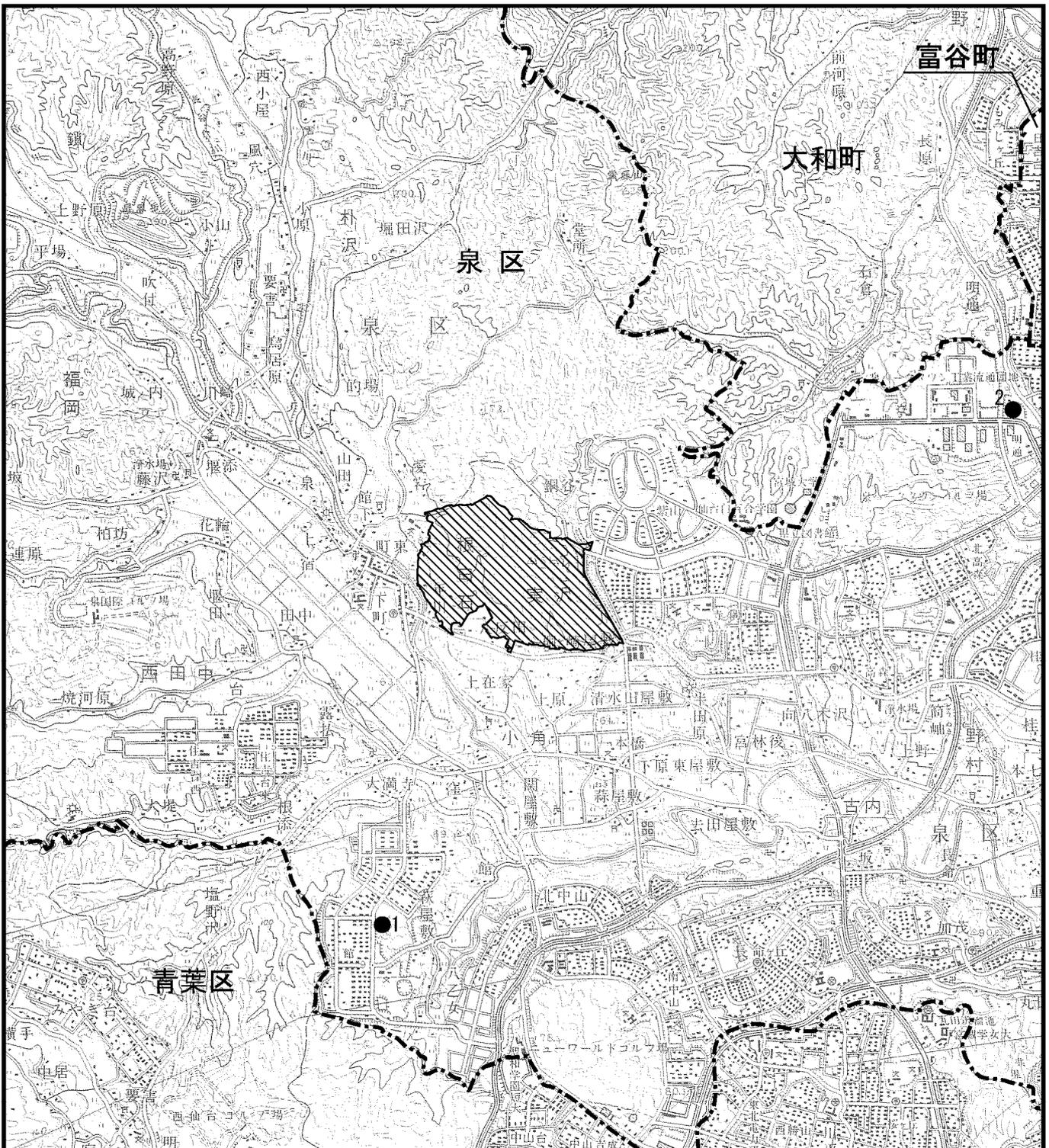
※1：法第 3 条については、土壌汚染対策法施行後から平成 25 年 3 月 31 日までの累計件数。有害物質使用特定施設の廃止年度と調査結果報告・調査猶予の年度が異なる場合があること、また、調査猶予の取り消し後に調査結果報告を行う場合があることから、結果報告件数と調査猶予件数の和が有害物質使用特定施設の廃止件数と一致しない場合がある。

※2：法第 1 4 条については、指定の申請の届出年度と指定年度が異なる場合があること、また指定の申請 1 件につき、要措置区域と形質変更時要届出区域の両方を指定する場合があることから、指定の申請件数と区域に指定した件数の合計は一致しない場合がある。

出典：「公害関係資料集」(平成 24 年度測定結果)(仙台市環境局)

⑤ 土壌汚染に関する苦情件数

仙台市では、「公害関係資料集」(平成 24 年度測定結果)(仙台市環境局)によると、平成 24 年度における土壌汚染に関する苦情件数は、1 件である。大和町では、「公害苦情調査結果報告書」(宮城県環境生活部環境対策課)によると、平成 24 年度における土壌汚染に関する苦情は出されていない。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 土壌のダイオキシン類調査地点 (图中番号: 1~2)



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

図 3.1-28
土壌のダイオキシン類
調査地点図 (文献調査)

出典:「公害関係資料集」(平成20~24年度測定結果)(仙台市環境局)

⑥ 発生源の状況

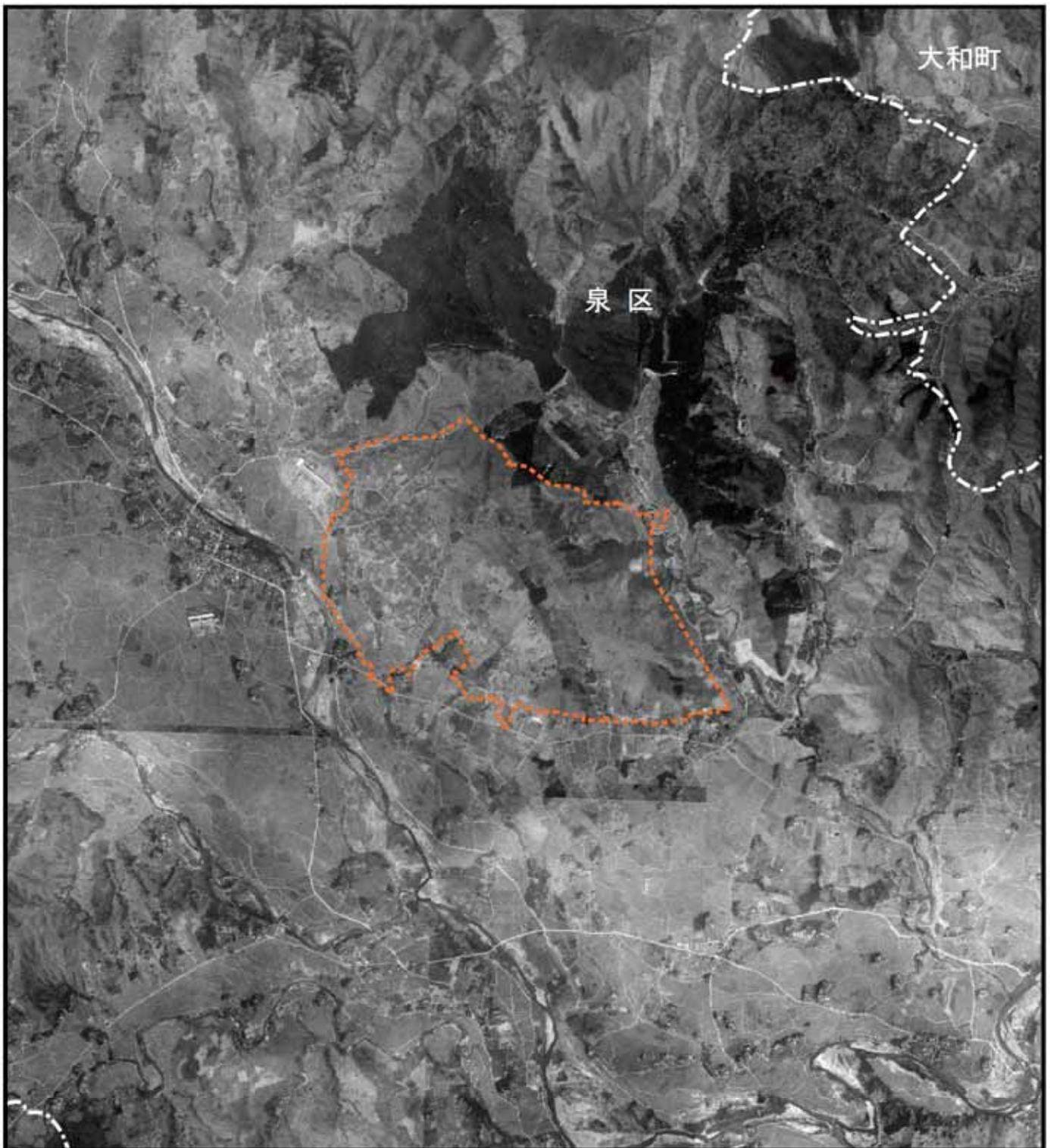
図 2-1 に示す関係地域範囲内では、水質汚濁防止法・下水道法による届出が出されている特定施設であって、土壤汚染対策法により指定された有害物質を使用している施設は存在しない。

⑦ 土壤汚染の可能性

対象事業計画地内は、林業（植林）および農業に利用されてきており、他の地域から土壤を持ち込む大規模な土地の改変や土壤汚染の原因となり得る工場の建設・操業は無い（図 3.1-29，図 3.1-30 参照，図 3.1-31 参照）。一方，対象事業計画地周辺の丘陵地は，新興住宅団地として造成されている。これらの造成団地は，団地内の土砂を利用して造成していると想定されることから，土壤汚染の可能性は低いと言える。

イ. 土壤汚染防止上の留意点

対象事業計画地内及び周辺地域には，土壤汚染の原因となる地歴はない。造成工事においては場内土量のバランスを図るため，搬出入土を極力少なくする計画とするが，土砂の搬入に際しては，汚染土壤を持ち込まないよう留意する。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線

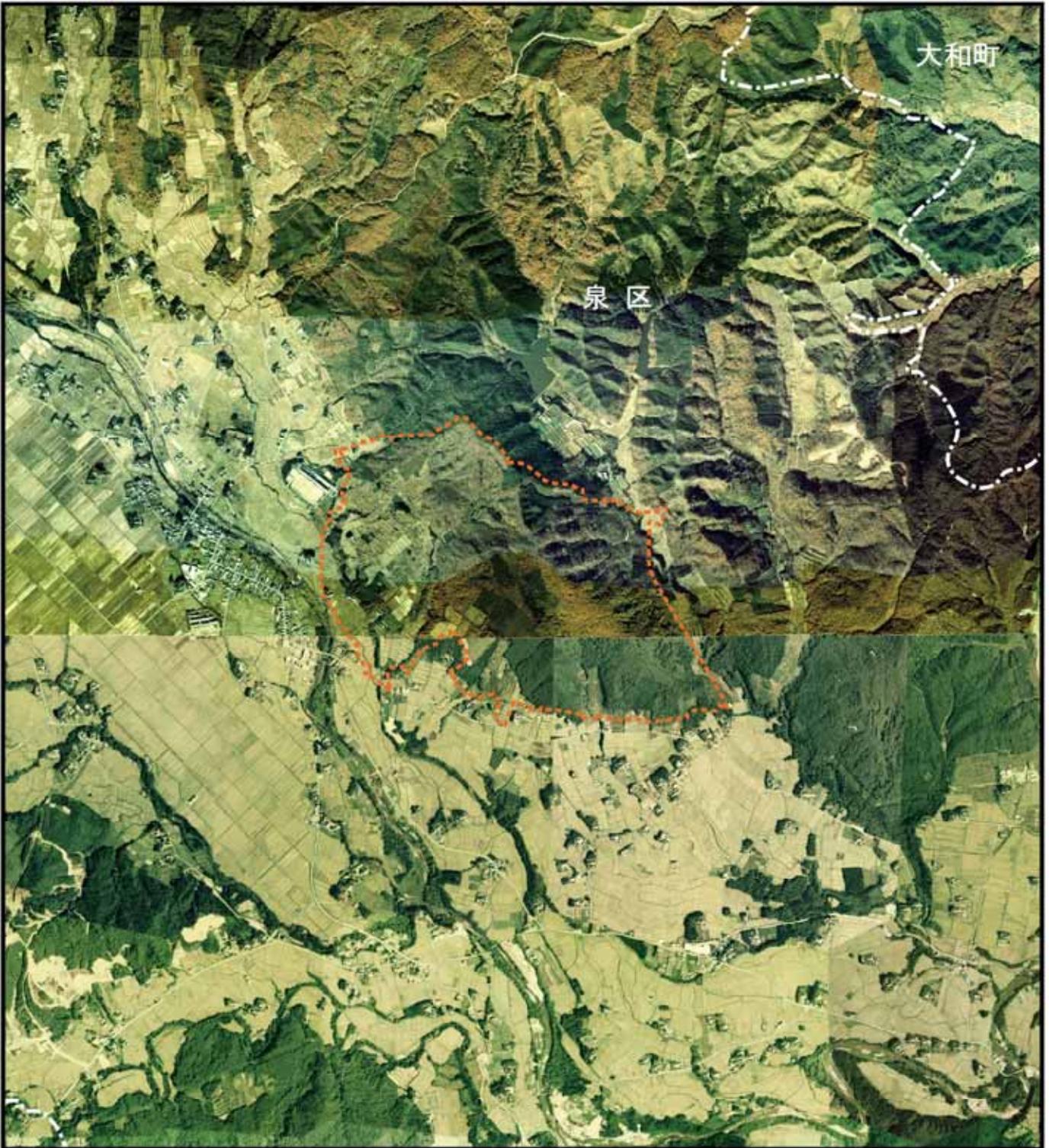


S=1:25,000

0 250 500 1000m

図 3.1-29
対象事業計画地周辺の状況
(1956年)

出典:米軍撮影空中写真(1956年撮影、コース番号:M555)



凡例

- : 対象事業計画地
- : 市区町境界線



S=1:25,000

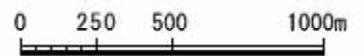
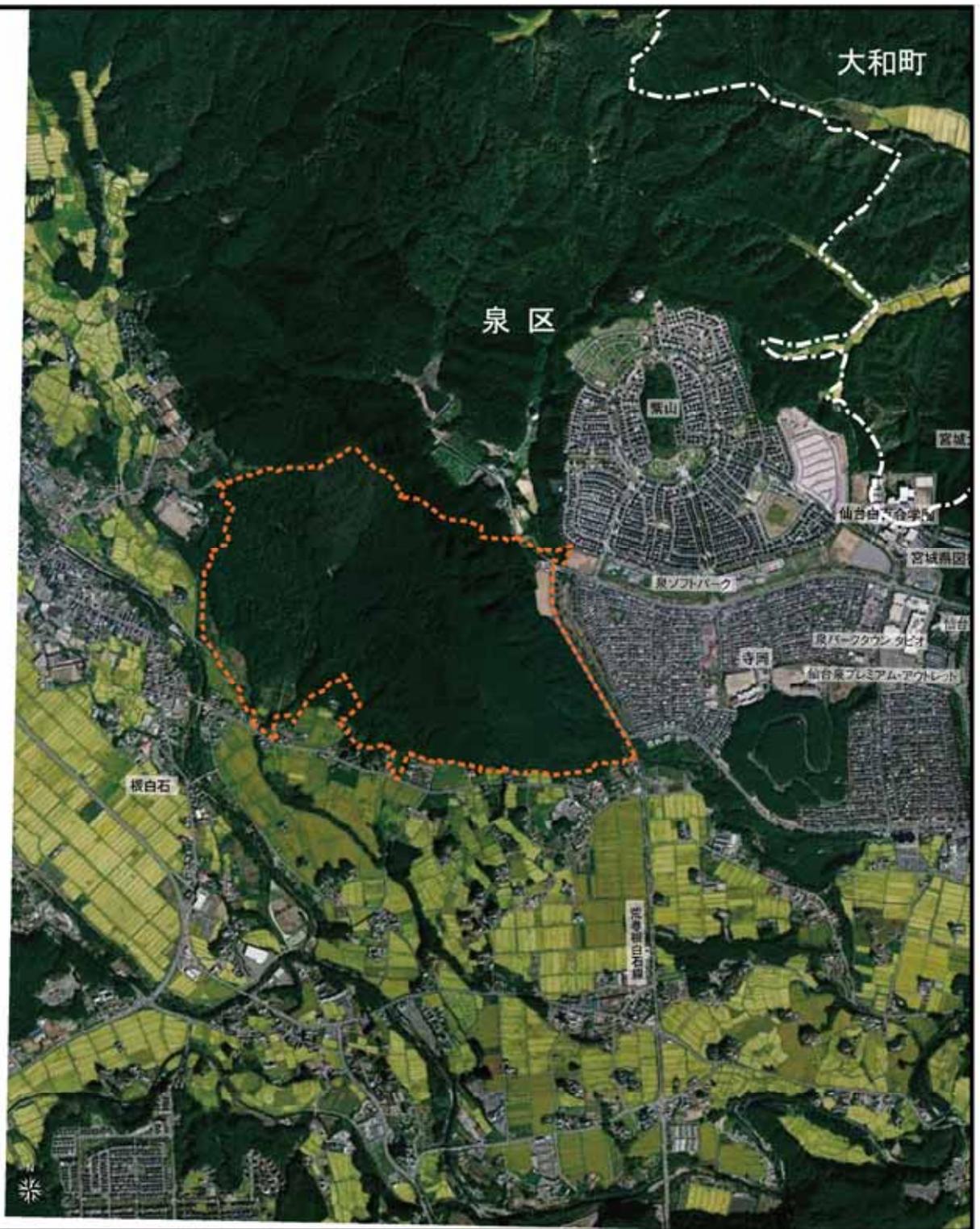


図 3.1-30
対象事業計画地周辺の状況
(1975年)

出典: 国土画像情報 (オルソ化空中写真) 国土交通省 (1975年撮影)



凡 例

- : 対象事業計画地
- : 市区町境界線



S=1:25,000

0 250 500 1000m

図 3.1-31
対象事業計画地周辺の状況
(2012年)

出典: (2012年撮影)

3.1.4. 生物環境

(1) 植物

ア. 植物相及び注目すべき種の状況

① 植物相

a. 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)によれば、仙台市の丘陵地帯は暖地帯と冷温帯の間に位置する中間温帯と呼ばれる領域でモミーイヌブナ林の発達が見られ、しかもその領域が広い面積を占めることが特徴である。この領域では暖地系の植物、寒地系の植物の両方が見られるなど、植物相は非常に多様である。

また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)によれば、大和町では、ミズナラ、オオカメノキ、エゾユズリハ、ヒメアオキ、チシマザサ等が生育する。

b. 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において、調査地域(対象事業計画地及びその周辺約 200m の範囲)で植物相調査を実施している。植物相調査実施日は、表 3.1-97、植物相確認種数一覧表は、表 3.1-98 に示すとおりである。

確認された植物種は、調査地域全体で 122 科 720 種(亜種、変種、品種も 1 種とする)であり、その大部分は、宮城県内の低地や丘陵地に主に生育する種で構成される。

表 3.1-97 植物相調査実施日(平成 12 年 3 月評価書)

調査項目	調査年	調査月日
植物相	平成 9 年	8 月 26 日, 27 日, 28 日 10 月 7 日, 8 日
	平成 10 年	4 月 19 日 5 月 1 日, 16 日, 17 日, 29 日, 30 日
植物群落	平成 9 年	8 月 26 日, 27 日, 28 日

出典:「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

表 3.1-98 植物相確認種数一覧表(維管束植物)(平成 12 年 3 月評価書)

分類群		対象事業 計画地内		対象事業 計画地周辺		全体				
		科数	種数	科数	種数	科数	種数			
シダ植物		10	36	10	28	11	40			
種子植物	裸子植物	5	6	4	5	5	6			
	被子植物	単子葉植物		15	147	15	135	15	192	
		双子葉 植物	離弁花類		58	248	60	248	64	306
			合弁花類		24	136	24	131	27	176
合計		112	573	113	547	122	720			

出典:「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

② 注目すべき植物種

a. 文献調査

注目すべき植物種は、「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)に掲載されている、学術上重要種、減少種、環境指標種及びふれあい保全種の該当種に加え、環境省レッドリスト・宮城県レッドリスト・文化財保護法及び種の保存法の該当種とした(表 3.1-99~表 3.1-100 参照)。

調査範囲における注目すべき植物種は、表 3.1-101~表 3.1-104 に示すとおりである。この注目すべき植物種のうち、「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)に記載のある植物種は 81 種であり、分布地は、根白石、朴沢小山、水の森公園等

である。また、「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）に記載のある植物種のうち、調査範囲に生育する注目すべき植物種は 37 種であり、その分布地は大和町宮床地区である。

b. 平成 12 年 3 月評価書

平成 12 年 3 月評価書において確認された注目すべき植物種は、表 3.1-101～表 3.1-104 に示す 104 種であり、その確認位置は、図 3.1-32 に示すとおりである。

以上 3 つの文献に記載の調査範囲における注目すべき種は、全部で 130 種である。

表 3.1-99 注目すべき種の選定基準

選定基準		番号(※)	説明	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市において、もともと稀産あるいは希少である種。あるいは分布が限定されている種。	
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限となっている種。あるいは隔離分布となっている種。	
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種	
		4	その他、学術上重要な種	
	注目種	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
			EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
			A	現在ほとんど見ることができない。
			B	減少が著しい。
			C	減少している。
			*	普通に見られる。
			/	生息・生育しない可能性が非常に大きい。
	環境指標種	○	本市の各環境分類において良好な環境を指標する種。（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標）	
	ふれあい保全種	○	市民に親しまれている（よく知られている）種のうち、保全上重要な種。（身近にある種の保全に対して啓蒙をはかるための種。）	
レッドデータ等	国 RL（「環境省第 4 次レッドリスト」（平成 24・25 年 環境省報道発表資料）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR	絶滅危惧 I A 類	
		EN	絶滅危惧 I B 類	
		VU	絶滅危惧 II 類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群	
	宮城 RL（「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 版－」（平成 25 年 宮城県）掲載種）	EX	絶滅	
		EW	野生絶滅	
		CR+EN	絶滅危惧類	
		VU	絶滅危惧 II 類	
		NT	準絶滅危惧	
		DD	情報不足	
		要	要注目種	
	天記、種保存法	特天	『文化財保護法』（昭和 25 年法律第 214 号）における特別天然記念物	
		天	『文化財保護法』（昭和 25 年法律第 214 号）における天然記念物	
		国内	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成 4 年法律第 75 号）における国内希少野生動植物	
		国際	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成 4 年法律第 75 号）における国際希少野生動植物	

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

表 3.1-100 減少種の地域区分

番号	地域区分	
1	山地地域	
2	西部丘陵地・田園地域	
3	市街地地域	
4	東部田園地域	
5	海浜地域（後背の樹林帯も含む）	

※対象事業計画地は、「2 西部丘陵地・田園地域」に該当する。

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020」（平成 23 年 3 月 仙台市）

表 3.1-101 注目すべき植物種(1/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分							国 RL	県 RL	天記・種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種										
							減少種										
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜	環境指標種					ふれあい保全種
1	ミズニラ	ミズニラ	○		○	1		B		A				NT	NT	根白石	
2	トクサ	イヌスギナ		○				B								大和町宮床地区	
3	コケシノブ	ヒメハイホラゴケ	○			1										朴沢小山	
4	オシダ	リョウメンシダ	○	○	○			B				○	○			水の森公園, 大和町宮床地区	
5		オシダ			○			B				○					
6		イワシロイノデ	○		○			B									水の森公園, 根白石
7		サカゲイノデ	○					B									北中山
8		ジュウモンジシダ	○		○			B				○	○			水の森公園	
9	メシダ	シケチシダ			○	1,2									要		
10		イヌガンソク			○			C					○				
11		クサソテツ			○			B		C							
12	マツ	モミ	○	○	○	2		C				○	○			長命館公園, 大和町宮床地区	
13	イチイ	カヤ			○	2		B					○				
14	クルミ	オニグルミ			○			B	B	B		○	○				
15	ヤナギ	ネコヤナギ			○	4		C	C			○	○				
16		キツネヤナギ	○		○			C				○	○				水の森
17	カバノキ	ハンノキ			○	1,4		C		B	C	○	○				
18		ミズメ			○		C	C					○				
19		サワシバ	○	○	○		C	B				○					朴沢, 大和町宮床地区
20		アカシデ	○	○	○		C	B				/	○	○			黒森山, 長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区
21		イヌシデ	○	○	○	4	C	B				C	○				長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区
22	ブナ	ブナ			○	4	C	B					○			屏風岳, 大和町宮床地区	
23		イヌブナ	○	○	○	1,4		B				○	○				屏風岳, 大和町宮床地区
24		アカガシ			○	2		C	C	C	C						
25		ミズナラ	○		○		C	B					○				黒森山, 朴沢
26		アラカシ			○											要	
27		シラカシ	○		○	2		C	C	C	/	○	○				芋沢大國神社, 長命館公園
28	ニレ	エノキ	○		○	4		B	B	B			○			寺岡	
29		ケヤキ			○	○		C	C	B	B		○	○			大和町宮床地区
30	タデ	ヤナギヌカボ	○			1				C			VU	要		福岡	
31		イヌタデ			○	○						○					大和町宮床地区
32		ミソソバ	○	○	○			C	B	C		○	○				水の森, 大和町宮床地区
33	ザクロソウ	ザクロソウ			○	1											
34	ナデシコ	カワラナデシコ	○		○			C			C					朴沢	
35	モクレン	タムシバ			○							○					
36	クスノキ	オオバクロモジ	○	○	○							○	○			水の森公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
37		シロダモ	○			2		*		*	*	○	○				長命館公園, 鷺倉
38	キンボウゲ	ニリンソウ			○			B		B		○	○				
39		リュウキンカ	○		○							○					白石銅谷, 朴沢堂所
40		カザグルマ			○	1		B		B			NT	VU			
41		トウゴクサバノオ	○			1		B									鷺倉
42		バイカモ	○			1		B									朴沢上の原

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照

表 3.1-102 注目すべき植物種(2/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分							国 RL	県 RL	天記・種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種										
							減少種					ふれあい保全種					
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜						環境指標種
43	ボタン	ヤマジャクヤク	○			1	B	B						NT	CR+EN	朴沢	
44	ツバキ	ヤブツバキ		○	○			B	B	B	B	○	○			大和町宮床地区	
45	モウセンゴケ	モウセンゴケ	○					C			C					寺岡	
46	ケシ	ヤマブキノソ	○			1		B								鷺倉, 堂所	
47	アブラナ	ナズナ	○	○	○			B	B	B		○	○			水の森公園, 北中山, 朴沢, 大和町宮床地区	
48	ベンケイソウ	ベンケイソウ			○										VU		
49		キリンソウ	○									○				上谷刈丸田沢	
50	ユキノシタ	トリアシショウマ	○	○	○		C	B		B			○			長命館公園, 大和町宮床地区	
51		コチャルメルソウ	○									○				朴沢洞門	
52	バラ	クサボケ			○										CR+EN		
53		ヤマブキ	○					C				○				朴沢	
54		カスミザクラ	○	○	○			C				○				黒森山, 大和町宮床地区	
55		ナガボノワレモコウ			○										VU		
56	マメ	ツクシハギ	○		○			B				○	○			水の森公園, 朴沢	
57	ユズリハ	ユズリハ	○			1, 2		C		C	C					水の森公園	
58	カエデ	ハウチワカエデ	○	○	○			C				○				水の森, 鷺倉, 大和町宮床地区	
59		メグスリノキ	○	○	○	1		B				○				長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
60		ヤマモミジ	○		○			B				○	○			水の森公園, 朴沢	
61		イタヤカエデ (広義)	○	○	○			C								長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
62		ウリハダカエデ	○	○	○			C					○			長命館公園, 黒森山, 水の森公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
63	トチノキ	トチノキ	○		○		C	C					○			朴沢	
64	モチノキ	イヌツゲ	○	○	○			C				C	○			長命館公園, 黒森山, 水の森公園, 大和町宮床地区	
65		ソヨゴ	○			1, 2		C							NT	黒森山, 塩野沢	
66	スマレ	ナガハシスマレ	○	○	○	1		B		B						長命館公園, 黒森山, 水の森公園, 朴沢, 鷺倉, 芋沢, 大和町宮床地区	
67	ヒシ	ヒシ	○		○			B		B		○	○			芋沢, 朴沢, 福岡, 根白石	
68	アカバナ	カラフトアカバナ			○										NT		
69	ミズキ	アオキ	○	○	○			C	C	C	C	○	○			水の森公園, 長命館公園, 鷺倉, 大和町宮床地区	
70	ウコギ	コシアブラ	○		○		C	C					○			水の森公園, 長命館公園, 鷺倉	
71	イチヤクソウ	ウメガサソウ	○						C		C	○	○			朴沢	
72	ツツジ	ヤマツツジ	○	○	○			C	C		C	○	○			黒森山, 水の森公園, 長命館公園, 朴沢, 鷺倉, 大和町宮床地区	
73		トウゴクミツバツツジ	○			2		B								長命館公園	
74		ナツハゼ	○		○			C					○			長命館公園, 根白石	
75	ヤブコウジ	ヤブコウジ			○							○					
76	サクラソウ	サクラソウ	○		○	1		A				○		NT	CR+EN	芋沢, 朴沢	
77	エゴノキ	オオバアサガラ			○	1		A									
78	モクセイ	イボタノキ	○		○			B				○				根白石, 長命館公園, 朴沢	
79	リンドウ	ホンバツルリンドウ	○			1		C						VU		実沢	
80		イヌセンブリ	○			1								VU	VU	福岡	
81	ガガイモ	スズサイコ	○			1		A						NT	VU	朴沢	
82		コカモメツル			○	1									VU		
83	ムラサキ	ルリソウ			○			C							NT		
84	シソ	シラゲヒメジソ			○										要		

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照

表 3.1-103 注目すべき植物種(3/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分							国 RL	県 RL	天記・種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種										
							減少種					ふれあい保全種					
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜						環境指標種
85	ゴマノハグサ	ムラサキサギゴケ		○	○			C		C		○				大和町宮床地区	
86	タヌキモ	イヌタヌキモ			○	1		B					NT	VU			
87	オオバコ	オオバコ	○	○	○							○				水の森, 長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区	
88	スイカズラ	オオカメノキ			○							○					
89	オミナエシ	オミナエシ			○			B		B		○	○				
90	キク	オクモミジハグマ	○	○	○			C				○				水の森, 大和町宮床地区	
91		キッコウハグマ	○		○			B				○				水の森公園	
92		オケラ	○		○			B				○	○			水の森公園, 長命館公園	
93		コウヤボウキ			○										CR+EN		
94		アキノキリンソウ	○	○	○			C					○				水の森, 大和町宮床地区
95		エンタンポボ	○	○	○			C	B	B	C	○	○			黒森山, 鷺倉, 大和町宮床地区	
96	オモダカ	アギナシ			○								NT	VU			
97	ヒルムシロ	エビモ	○					B		B		○				芋沢	
98		ホソバミズヒキモ			○									VU			
99	ユリ	カタクリ	○	○	○			B	B	B			○			水の森公園, 長命館公園, 鷺倉, 泉, 大和町宮床地区	
100		ショウジョウバカマ			○			B				○	○				
101		ニッコウキスゲ			○			B	B	B			○				
102		ヒメヤブラン	○	○				C			*	○	○				根白石, 朴沢, 大和町宮床地区
103		オオバジャノヒゲ	○	○	○			B			C		○				芋沢, 長命館公園, 大和町宮床地区
104			ナルコユリ			○									DD		
105		ユキザサ	○					C				○				長命館公園	
106	ミズアオイ	コナギ			○					C		○	○				
107	アヤメ	ノハナショウブ	○		○	1		C				○	○			朴沢, 水の森公園	
108		ヒメシャガ	○		○			B	B			○	○	NT	NT		長命館公園, 水の森公園, 福岡, 根白石
109	イネ	ヤマアワ	○		○			B			B					根白石	
110		メヒシバ		○	○							○				大和町宮床地区	
111		カゼクサ	○	○	○			B	C			○				水の森, 朴沢, 大和町宮床地区	
112		オオウシノケグサ	○			4		B		B	C	○	○				古内
113		エゾノサヤスカグサ		○	○						C						朴沢, 根白石, 大和町宮床地区
114		オギ			○			C	C	C	C	○	○				
115		ヨシ		○	○			C	C	C	C	○	○				大和町宮床地区
116		ツルヨシ			○			C	C	C			○	○			
117			オオクマザサ	○		○	3										水の森公園, 芋沢
118			マコモ			○			B		B		○	○			
119		シバ	○		○			B	B	B		○	○			長命館公園, 朴沢	
120	サトイモ	ミズバショウ	○					B				○	○			丸田沢	
121		ヒメザゼンソウ			○			B	C								
122	ミクリ	ナガエミクリ	○		○	1		A		A			NT	NT		根白石	
123	ガマ	ヒメガマ			○			C	C	C		○					
124	カヤツリグサ	タチスゲ	○		○	1								CR+EN		塩野沢	
125		カンガレイ	○		○			B		B						丸田沢	
126		サンカクイ			○			B		B							

※1: 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(平成 23 年 3 月 仙台市)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ② 「大和町環境基礎調査業務委託報告書」(平成 15 年 3 月 大和町)(報告書に記載されている種のうち, その種の分布地が, 調査範囲に含まれている種)
- ③ 「泉パークタウン住宅開発(第 6 期)に係る環境影響評価書」(平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社)

※2: 表中の分布地は, 文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3: 表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

※4: 減少種の地域区分については, 表 3.1-100 を参照

表 3.1-104 注目すべき植物種(4/4)

No.	科名	種名	文献			仙台市重要種区分										国 RL	県 RL	天記・種保存法	分布地	
			①	②	③	学術上重要種	注目種													
							減少種					ふれあい保全種								
							山地	西部丘陵地・田園	市街地	東部田園	海浜		環境指標種							
127	ラン	シュンラン	○		○			C			C		○					水の森公園		
128		ホクリクムヨウラン	○			1		B										芋沢		
129		クモギリソウ	○		○	1,4		B			B							芋沢, 朴沢		
130		ネジバナ	○	○	○			B		B		○	○					水の森公園, 長命館公園, 朴沢, 大和町宮床地区		
	63 科	130 種	81 種	37 種	104 種	40 種	11 種	99 種	23 種	40 種	22 種	63 種	57 種	12 種	25 種	0 種				

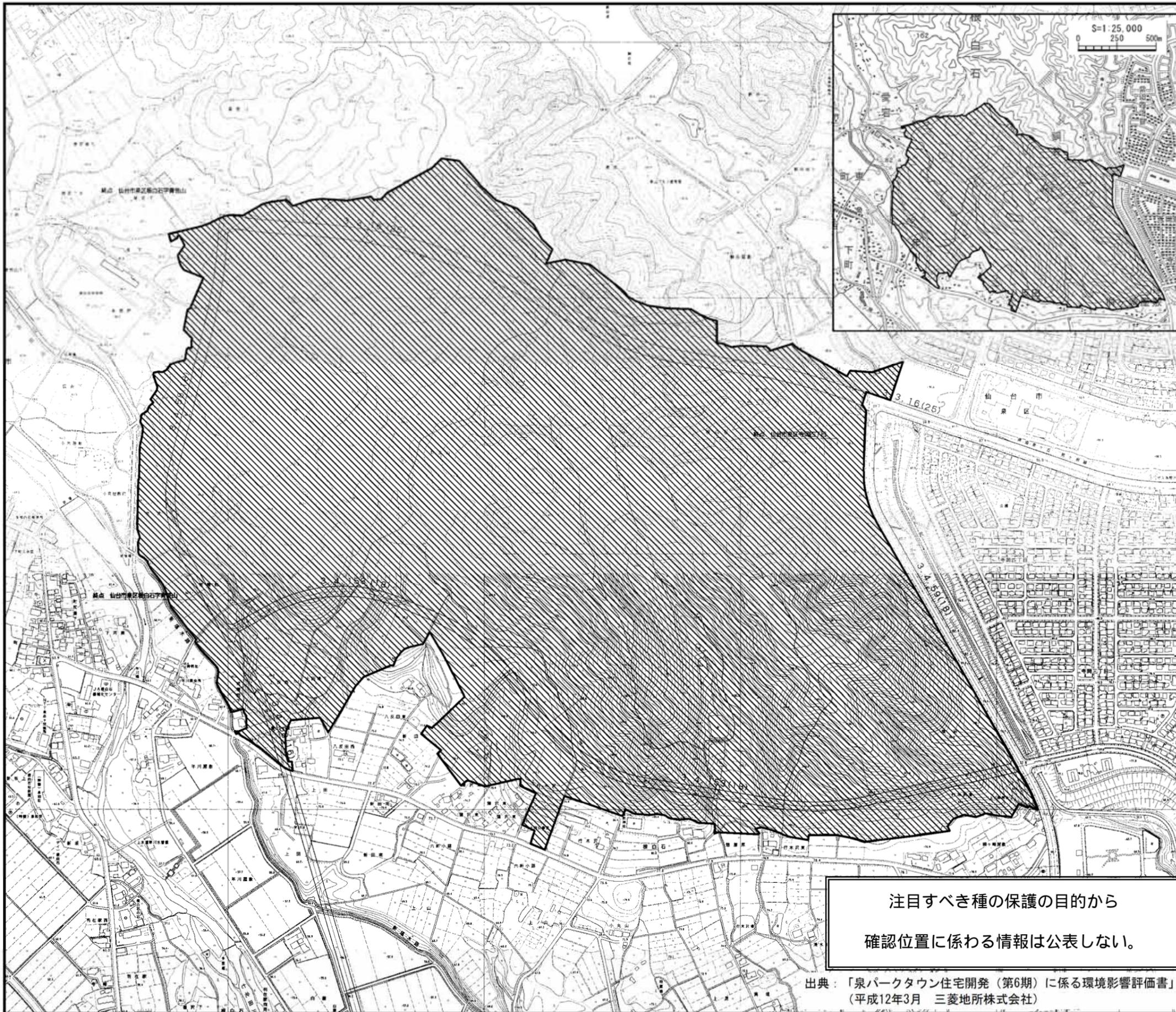
※1：表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
- ②「大和町環境基礎調査業務委託報告書」（平成 15 年 3 月 大和町）（報告書に記載されている種のうち、その種の分布地が、調査範囲に含まれている種）
- ③「泉パークタウン住宅開発（第 6 期）に係る環境影響評価書」（平成 12 年 3 月 三菱地所株式会社）

※2：表中の分布地は、文献①及び②に記載されている分布地を示す。

※3：表中の分布地が空欄のものは文献③における現地確認種を示す。

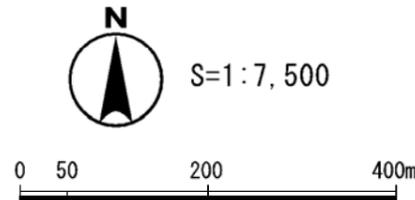
※4：減少種の地域区分については、表 3.1-100 を参照



凡 例	
●	ミズニラ
■	シケチシダ
▲	アラカシ
★	ザクロソウ
●/	カザグルマ
/	サクラソウ
●	オオバアサガラ
■	コカモメヅル
▲	アギナシ
★	ホソバミズヒキモ
●	ヒメザゼンソウ
■	ナガエミクリ
▲	タチスゲ
★	シュンラン
▨	対象事業計画地
■	ヒメシヤガ

※出典で位置が確認できた注目種のみを記載した。
 ※右上の1/25,000の図は対象事業計画地外の確認地点を表したものである。

一般的に、植物相調査では確認種全て位置情報を記録しているわけではなく、注目すべき種のみ位置情報を記録している。国及び宮城県のレッドリスト改訂により、平成12年当時は注目すべき種に該当しない種でも、現在では注目すべき種として選定される種があるため、上記凡例に記載の無い種は、位置情報が不明である。



注目すべき種の保護の目的から
 確認位置に係わる情報は公表しない。

出典：「泉パークタウン住宅開発（第6期）に係る環境影響評価書」
 （平成12年3月 三菱地所株式会社）

図 3.1-32
 注目すべき植物種の確認位置図
 （平成12年3月評価書）

※本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500) (平成19年修正版)を下図として使用している。

イ. 植生及び保全上重要な植物の生育地の状況

① 植生

a. 文献調査

調査範囲の現存植生は、図 3.1-33 に示すとおりである。

対象事業計画地の東側及び南側の東北自動車道以南は、市街地となっている。七北田川周辺は、水田雑草群落が広範囲を占める。対象事業計画地の北側及び七北田川を挟んで西側、大和町内はクリーコナラ群集やアカマツ群落が分布している。また、七北田川沿いには、ヤナギ低木群落、ヨシクラスなどの、自然植生や自然植生に近い植生自然度の高い植生がみられる（表 3.1-105 参照）。なお、「平成 21 年度 自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 22 年 3 月 仙台市）では、環境省の植生自然度 9, 10（自然植生）に該当する植生を「自然性の高い植生」と位置づけている。

対象事業計画地の植生について中央部から東側はクリーコナラ群落であり、西側には畑地雑草群落が分布し、南側でスギ植林や水田雑草群落が分布する。

表 3.1-105 植生自然度区分基準

植生自然度	区分基準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クヌギーコナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑園、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：自然環境保全基礎調査[環境省・生物多様性センター]

http://www.biodic.go.jp/kiso/vg/vg_kiso.html

b. 平成 12 年 3 月評価書

対象事業計画地の現存植生は、図 3.1-34 に示すとおりである。

対象事業計画地内は、コナラ林、ハンノキ林、竹林、アカマツ植林等が占め、植生自然度は 5～7 の植生が多く、対象事業計画地全体の 9 割程度を占める。対象事業計画地には自然植生あるいはそれに近い植生（植生自然度 10～8）は全く分布しておらず、全て代償植生となっている。植生自然度の観点からは対象事業計画地は人為的干渉を比較的多く受けてきた土地といえる。

② 保全上重要な植物の生育地

a. 文献調査

「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）では、表 3.1-106 に示す選定基準により、保全上重要な植物の生育地を選定しており、調査範囲においては、表 3.1-107 及び図 3.1-35 に示す保全上重要な植物の生育地が存在する。なお、対象事業計画地は、「根白石（朴沢・実沢・福岡）地域の里地・里山植生」の地域内に位置している。

宮城県レッドリストにおける植物群落のカテゴリー区分は、表 3.1-108 に示すとおりである。調査範囲の宮城県レッドリストに該当する植物群落は、表 3.1-109 及び図 3.1-36 に示すとおりである。

表 3.1-106 保全上重要な動植物の生息地・生育地選定のための基準

NO.	判断理由	
保全上重要な地域	1	・保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域
	2	・多様な生物相が保存されている地域
	3	・自然性の高い植生，その他学術上重要な植生が保存されている地域
	4	・湿地，湧水，岸壁地，地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
	5	・自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
	6	・環境教育の場としてふさわしい地域
	7	・郷土の特色が保存されている地域（里地・里山・居久根等）
	8	・緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地，市街地や田園地域に点在する緑地等）
	9	・海辺や水辺，植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

表 3.1-107 保全上重要な植物の生育地

NO.	件名	備考	判断理由
①	黒森山国有林のソヨゴ林と周辺の植生	・ 権現森緑地環境保全地域。 ・ ソヨゴは本市が北限で，かつ，1978 年に発見されるまでの北限地から 250km も離れた隔離分布である。	3,6,7
②	七北田川中～下流域の河畔植生	・ 市と丘陵の緑地の連続性を確保するうえで重要なコリドー。 ・ 河畔植生として保護が必要。	8,9
③	朴沢のモミ林	・ 朴沢地区の国道 457 号沿いにはモミ林が残されている。	3,7
④	根白石（朴沢・実沢・福岡）地域の里地・里山植生	・ 里地・里山植生が良好な状態で残されている。	7,8
⑤	大倉・芋沢丘陵地の植生（緑の回廊）	・ 生物種の多様性を維持するための地域として保護する必要がある。	7,8
⑥	丸田沢緑地（水の森公園）	・ 丸田沢緑地環境保全地域。 ・ 市街地に残された池沼を含む緑地・公園である。植物生育地，環境学習のフィールドとして重要である。	5,6,7
⑦	西田中の里地・里山植生	・ 里地・里山植生が良好な状態で残されている。	7,8

出典：「平成 22 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（平成 23 年 3 月 仙台市）

注：表中の NO.は図 3.1-35 の番号に対応する。

判断理由は表 3.1-106 に対応する。

表 3.1-108 宮城県レッドリストにおける植物群落のカテゴリー区分

カテゴリー	区分	基本概念
D	壊滅	—
4	壊滅状態	群落は全体的に壊滅状態にあり，緊急に対策を講じなければ壊滅する。
3	壊滅危惧	群落は対策を講じなければ徐々に悪化して壊滅する。
2	破壊危惧	群落は当面保護されているが，将来破壊されるおそれがある。
1	要注意	群落は，現在保護・管理状態が良く，当面破壊されるおそれが少ない。しかし，監視は必要である。

出典：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 年版（震災前アーカイブ）－」（平成 25 年 3 月 宮城県）

表 3.1-109 宮城県レッドリストに該当する植物群落

単一群落

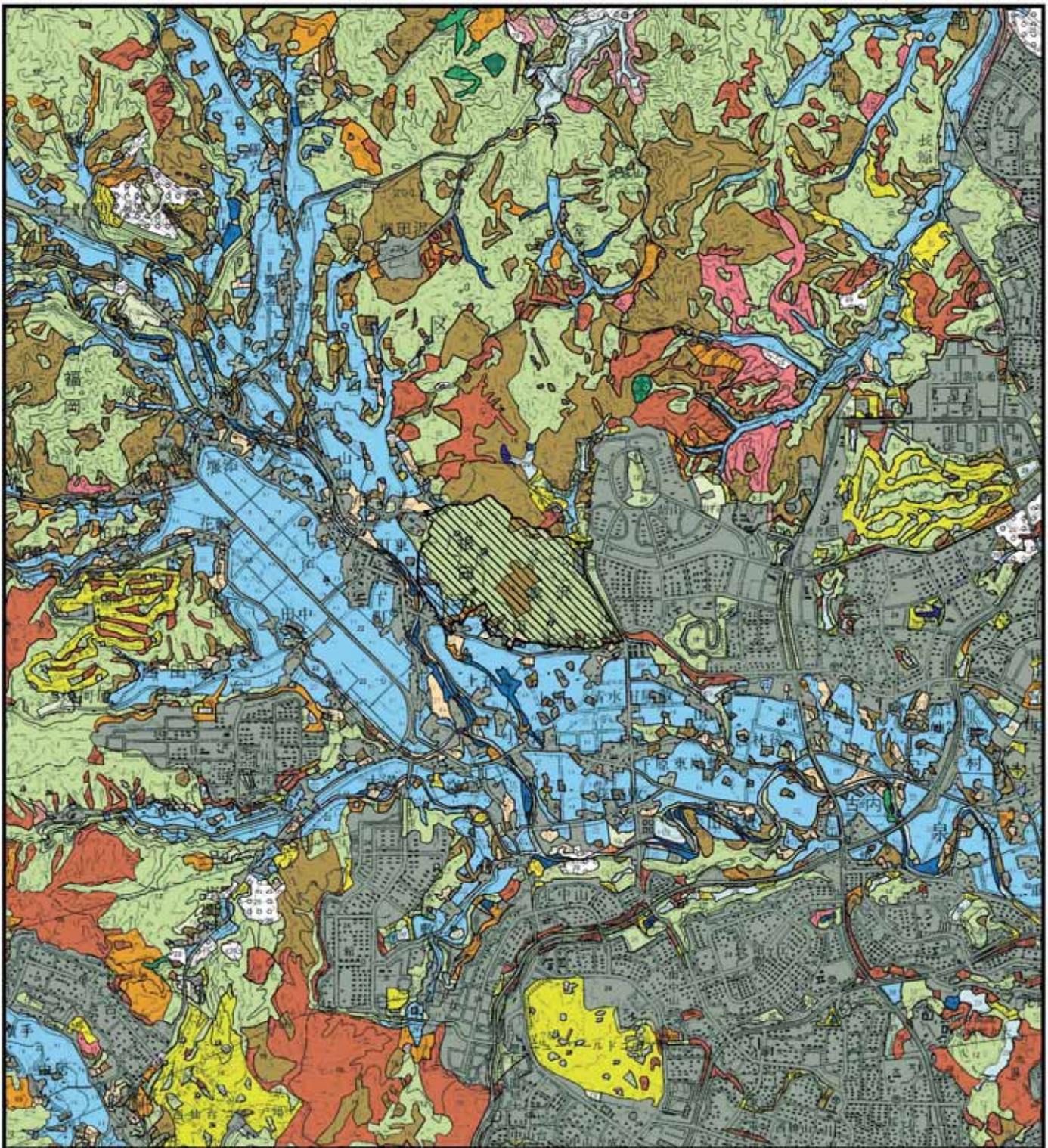
No.	植生	群系名	群落名	調査群落名	カテゴリー
1	丘陵地帯	二次林	ソヨゴ群落	黒森山のソヨゴ群落	3

群落複合

No.	区分	調査群落名	カテゴリー
2	中間温帯森林植生	(仮称) 丸田沢の植物群落	3

出典：「宮城県の希少な野生動植物－宮城県レッドリスト 2013 年版（震災前アーカイブ）－」（平成 25 年 3 月 宮城県）

注：カテゴリーは表 3.1-108 に対応する。



凡例

 : 対象事業計画地  : 市区町境界線

01 ミヤマハンノキ群落(9)	09 商業広葉樹木群落(7)	17 竹林(7)	25 緑の多い住宅地(2)
02 モミイヌブナ群落(8)	10 ススキ群団(V)(5)	18 ゴルフ場・芝地(2)	26 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等(2)
03 イヌシダーアカシデ群落(9)	11 伐採跡地群落(V)(4)	19 路傍・空地雑草群落(4)	27 工場地帯(1)
04 ケヤキ群落(IV)(9)	12 グリーコナラ群落(7)	20 果樹園(3)	28 造成地(1)
05 ハンノキ群落(IV)(9)	13 クズ群落(4)	21 短雑草群落(2)	29 開放水域(-)
06 ヤナギ低木群落(IV)(8)	14 ヨシクラス(10)	22 水田雑草群落(2)	30 自然裸地(-)
07 ヤマハンノキ群落(7)	15 ヒルムシロクラス(10)	23 放棄水田雑草群落(4)	
08 アカマツ群落(V)(7)	16 スギ・ヒノキ・サワラ植林(6)	24 市街地(1)	

※ 凡例の括弧内は植生自然度(表 3.1-105 参照)を示す。

出典: 「1:50,000 仙台市植生図 東日本大震災後における自然環境基礎調査業務委託報告書」
(平成 25 年 仙台市)

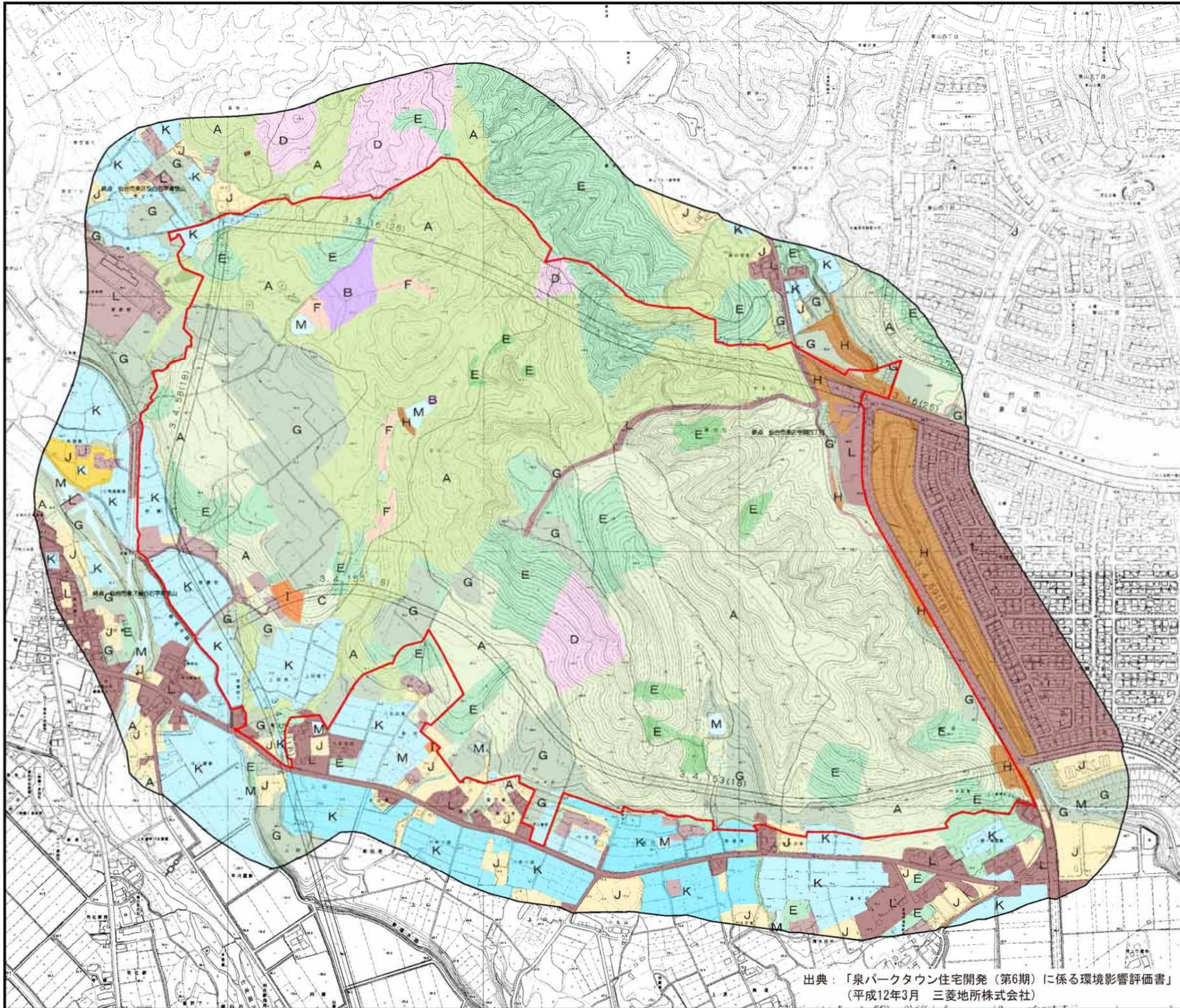
「第 6 回・7 回 自然環境保全基礎調査 植生調査 根白石」(2002 年 環境省)



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

図 3.1-33
現存植生図
(文献調査)



- 凡例
- : 対象事業計画地
 - A : コナラ林(植生自然度 7)
 - B : ハンノキ林(植生自然度 7)
 - C : 竹林(植生自然度 7)
 - D : アカマツ植林(植生自然度 6)
 - E : スギ植林(植生自然度 6)
 - F : 湿性植物群落(植生自然度 5)
 - G : ススキ群落(植生自然度 5)
 - H : 法面雑草群落(植生自然度 5)
 - I : 果樹園(植生自然度 3)
 - J : 畑地雑草群落(植生自然度 2)
 - K : 水田雑草群落(植生自然度 2)
 - L : 建物・道路など(植生自然度 1)
 - M : 開放水面(植生自然度 1)

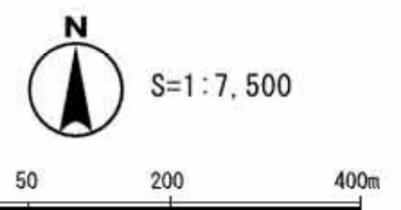
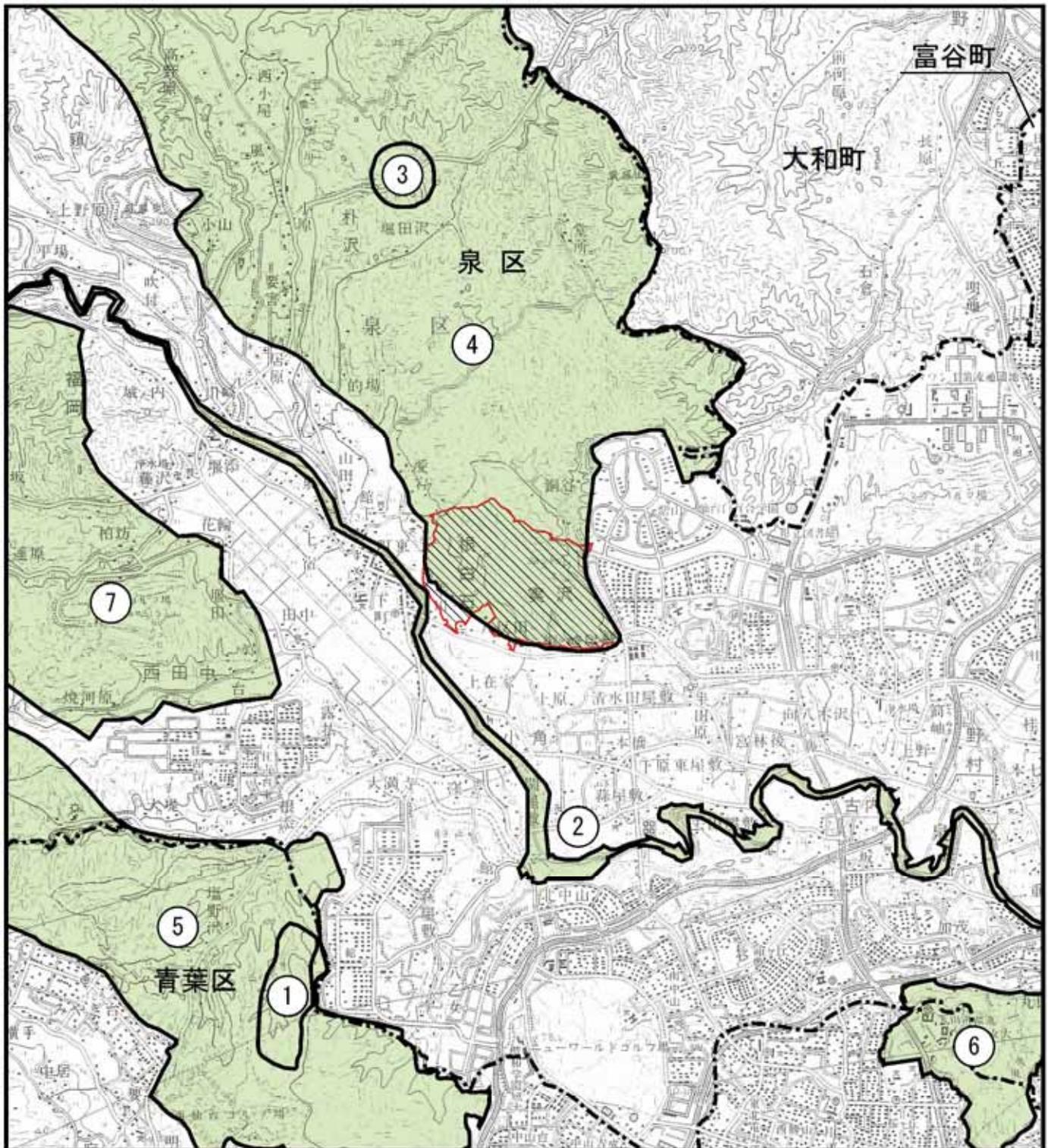


図 3.1-34
 現存植生図
 (平成12年3月評価書)

出典: 「泉パークタウン住宅開発(第6期)に係る環境影響評価書」
 (平成12年3月 三菱地所株式会社)

※本図は、仙台市都市計画基本図(1:2500)(平成19年修正版)を下図として使用している。



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 保全上重要な植物の生育地 (①~⑦)
-  : 市区町境界線

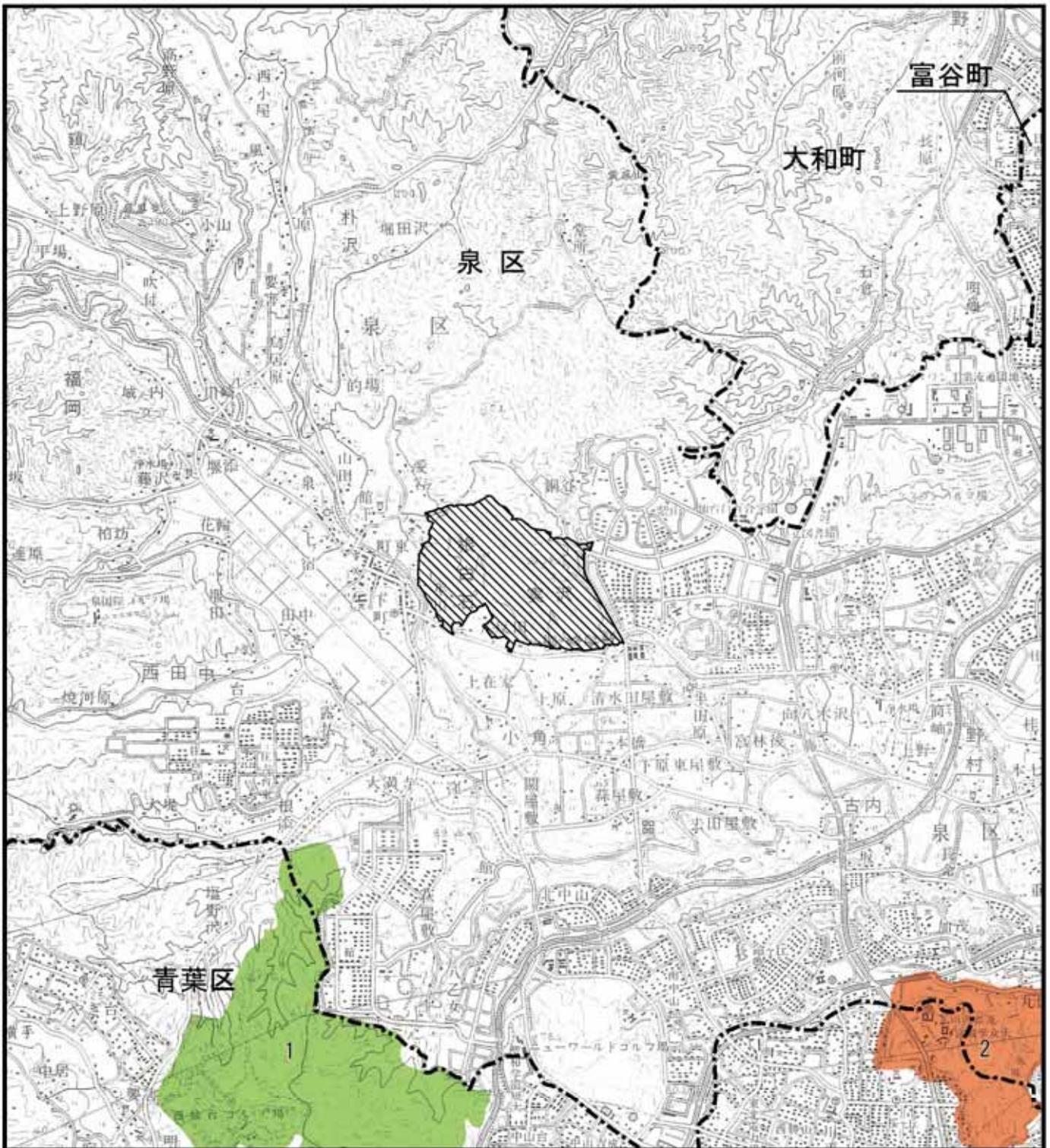


S=1:50,000

0 500 1000 2000m

図 3.1-35
保全上重要な植物の生育地
(文献調査)

出典：「平成22年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」
(平成23年3月 仙台市)



凡例

-  : 対象事業計画地
-  : 市区町境界線
-  : 黒森山のソヨゴ群落を含む地域（権現森緑地環境保全地域）
-  : （仮称）丸田沢の植物群落を含む地域
（丸田沢緑地環境保全地域を含む地域）



S=1:50,000

0 500 1000 2000m

図 3.1-36
宮城県レッドリストに
該当する植物群落

b. 平成 12 年 3 月評価書

対象事業計画地内は、保全上重要な植物の生育地に含まれており、ハンノキ林、湿性植物群落等が存在するものの、宮城県レッドリストに該当する植物群落はない。

ウ. 植生からみた事業予定地の位置づけ及び保全上の留意点

対象事業計画地は、北側から連続する丘陵地の南端部にあたり、南側は七北田川によって形成された段丘平野が広がっている。丘陵地の植生は、コナラ二次林やスギ・アカマツ植林によって大部分が占められる。また、西側には耕作放棄地が広がり里地・里山的な植生となっている。

対象事業計画地は山地地域と市街地地域のバッファゾーン（緩衝帯）として、本市の生物多様性の連続性を支える重要地域であることから、既往の調査結果で確認された注目すべき種を念頭に現地調査を実施し、移植等の保全対策を検討する。